



玉から
古代日韓交流を
探る



ごあいさつ

近年、平城遷都1300年、古事記編纂1300年、伊勢神宮と出雲大社の遷宮などの節目の年が重なり、国民の皆様の間で、日本という国がどのようにしてできたのかなど、古代社会に対する関心が非常に高くなってきています。

また、2020年は、日本書紀編纂1300年、東京オリンピック・パラリンピック開催の年にあたり、国内外から日本の歴史文化により注目が集まると考えています。

そこで、個々の地域における研究では見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明するため、古代歴史文化の調査・研究・啓発に関心のある14県が連携して「古代歴史文化協議会」を設立し、共同調査研究を行うことといたしました。

協議会では、古代の政治や祭祀を解明する上で重要な「古墳時代の玉類」をテーマとして平成26年度から調査研究を行っており、その成果を講演会やシンポジウム、展覧会などの形で皆様に広く情報発信してまいります。

昨年度に続いて第2回目となる今回の講演会では、視野を朝鮮半島に広げ、「玉から古代日韓交流を探る」と題して、古墳時代と三国時代の玉からみた日韓交流に焦点を当てます。

日本で出土する朝鮮半島由来の玉の意味、日韓両国で出土するヒスイ製勾玉の評価など、玉から見た当時の日韓交流はいかなるものであったのか、この研究の韓国の第一人者による講演とパネルディスカッションにより探っていきます。

本講演会を通じて、皆様の古代の歴史・文化への関心がさらに高まることを願っております。

開催にあたり、共催いただきました読売新聞社と、御指導・御協力いただいた関係者・関係機関の皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成28年12月10日

古 代 歴 史 文 化 協 議 会
会 長 島根県知事 溝 口 善 兵 衛

第2回 古代歴史文化協議会講演会

玉から古代日韓交流を探る

13:00～13:10 開会あいさつ

古代歴史文化協議会会長 島根県知事 溝口 善兵衛

13:10～14:10 <招待講演>

「古代韓半島における硬玉製勾玉の移入とその歴史的背景」

韓国慶北大学校教授 朴 天秀

: 資料P1～8

14:10～14:20 休憩

14:20～17:00 <パネルディスカッション>

(間に10分間休憩)

「東アジアにおける日本の玉類」

コーディネーター 菅谷 文則 (奈良県立橿原考古学研究所所長)

パネリスト 朴 天秀

福井県 (福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 宮崎 認) : 資料P9～12

奈良県 (奈良県立橿原考古学研究所 井上主税) : 資料P13～16

和歌山県 (和歌山県教育庁文化遺産課 黒石哲夫) : 資料P17～20

福岡県 (福岡県教育庁文化財保護課 吉田東明) : 資料P21～24

宮崎県 (宮崎県立西都原考古博物館 藤木 聡) : 資料P25～28

日程: 平成28年12月10日(土) 13:00～17:00

場所: よみうり大手町ホール

主催: 古代歴史文化協議会
読売新聞社

表紙: 上 車駕之古址古墳出土金製勾玉 (和歌山市立博物館蔵)
中 十善の森古墳出土トンボ玉 (若狭町歴史文化館蔵)
(写真提供 福井県立歴史博物館)
下 銭亀塚雁木玉 (宮崎県立西都原考古博物館蔵)

裏表紙: 国宝藤ノ木古墳出土品 (金属製玉類)
(文化庁蔵・奈良県立橿原考古学研究所保管)

外来系玉類の種類



がんぎだま
雁木玉

2色以上のガラスで、(雁木=雁の行列のようなギザギザの)縞模様が作り出された丸玉

(左：奈良県岡峯古墳、右：宮崎県銭亀塚)



トンボ玉

色ガラスの玉に黄色ガラス小片などを溶着させ、トンボの複眼を連想させる斑点文の装飾となる丸玉

(左：福井県十善の森古墳、右：奈良県沼山古墳)



重層ガラス玉

金箔や銀箔をガラスにはさんだ丸玉、またはガラス球を金箔で包んでさらにガラスを被せた丸玉

(左：奈良県新沢千塚 126 号墳、右：福岡県唐船古墳)



方形ガラス玉

透明度の高い薄水色で、立方体や直方体の形状を呈する玉

(左：宮崎県鈴鏡塚古墳、右：福岡県牛頸中通 6 号墳)



うつろだま
金属製空玉

金・金銅・銀などの金属の薄板を用いて、勾玉・丸玉・梔子玉・有段の玉などをそれぞれ半分かたち作り、2つを蠟付けした中空の玉

(左：金製勾玉 和歌山県車駕之古址古墳、中：金製勾玉 韓国玉田 M4 号墳 [慶尚大学校博物館提供]、

右：銀製勾玉 (頭部と尾部にガラス装飾) と銀製丸玉 奈良県慈恩寺 1 号墳)



てんがせき
天河石製玉

アマゾナイトともよばれる青緑色の石材を用いた玉で、青銅器時代の朝鮮半島南部と、併行する弥生時代前期～中期前半の北部九州を中心に分布。近年古墳からの出土例が確認できる

(左：丸玉 福岡県上ヶ原 10 号墳、右：勾玉 奈良県ホリノヲ 2 号墳)



メノウ丸玉

赤みの強いメノウを用いた丸玉で、片側の孔の周辺が大きく窪み、ほかにも表面に凹凸を残したままのものが多くのが特徴

(左：福岡県平原古墳、右：福岡県丸ノ口 V-5 号墳)



関連年表

西暦	時代	日本（外来系玉類と出土古墳）	朝鮮半島（玉類と出土古墳）	朝鮮半島の時代	
100	弥生後期	後漢光武帝より「漢委奴国王」金印を賜る (57)		原三国	
200		倭国大乱 卑弥呼、魏に遣使 (239) 古墳の造営が始まる (古墳へのヒスイ製勾玉の副葬開始)	公孫康、帯方郡を設置		
300	古墳前期		高句麗、楽浪・帯方郡を滅ぼす (313) (ヒスイ製勾玉の副葬開始：加耶福泉洞古墳群) 百済近肖古王、倭に七支刀を贈る (369)	三国（高句麗・百済・新羅・加耶諸国）	
400		百舌鳥・古市古墳群に巨大古墳の造営はじまる 倭の五王が南朝に遣使 (古墳への装飾付ガラス玉、金属製空玉の副葬開始) (雁木玉、金層ガラス玉、金・銀製丸玉：奈良県新沢千塚126号墳 金製勾玉：和歌山県車駕之古址古墳) 倭王武、宋に遣使 (478) 「ワカタケル」銘文入鉄剣が九州と関東で出土 (トンボ玉、銀製丸玉：福井県十善の森古墳)	倭、新羅に侵入するが高句麗に撃退される (391～404) 高句麗、広開土王碑建立 (414)		
500	古墳中期	横穴式石室の普及	(冠装飾のヒスイ製勾玉、雁木玉、金製勾玉・丸玉：新羅皇南大塚) 百済、高句麗により漢城陥落、熊津遷都 (475) (ヒスイ製勾玉、金製勾玉：加耶玉田 M4 号墳)		
600		仏教が伝来 (538) (雁木玉：宮崎県銭亀塚) (九州の古墳に方形ガラス玉、メノウ丸玉、天河石製玉の副葬が盛んになる) (方形ガラス玉：福岡県牛頸中通6号墳) 飛鳥寺が建てられる (596) 前方後円墳築造停止	(ヒスイ製勾玉、雁木玉：百済武寧王陵) 金官加耶、滅亡 (532) 百済、泗泚遷都 (538) 大加耶、新羅に併合 加耶諸国、滅亡 (562)		
終末期	飛鳥	(古墳への外来系玉類の副葬がほぼ終息する) 大化の改新 (乙巳の変：645) 壬申の乱 (672) 藤原宮遷都 (694) 古墳造営停止	百済、滅亡 (660) 白村江の戦い (663) 高句麗、滅亡 (668) 新羅、朝鮮半島を統一 (676)		統一新羅

資料集掲載の主要古墳の分布



古代韓半島における硬玉製勾玉の移入とその歴史的背景

韓国慶北大学校教授 朴 天秀

1. 序言

新羅の金冠を装飾した勾玉は、金色と対比される緑色で絶妙な調和をみせる。新羅古墳から多数出土した硬玉製勾玉（註：本文中では硬玉をヒスイと同義で使用する）はその産地について議論がなされてきた。韓半島の硬玉製勾玉は国内で産地が確認されない点や、硬玉の出現が日本列島のほうが数百年以上早い点、慶州市味雛王陵地区古墳群、梁山市夫婦塚、完州郡上雲里古墳群などの出土品が糸魚川産との自然科学分析の結果などから、日本列島産と把握する。このことは、韓半島の硬玉製勾玉が、3・4世紀には日本列島に近い金海・釜山の金官加耶で出現し、5世紀には新羅地域に集中移入し、6世紀を前後して本格的に百済地域に出現したように、各時期の倭との交易が活発であった地域に移入されたことから裏付けられる。

本稿では新羅、加耶、百済地域の主要遺跡での硬玉製勾玉の出土状況を検討し、各地域への移入背景と歴史的意義について述べてみたい。

2. 韓半島出土の硬玉製勾玉の概観

(1) 新羅

【慶州】月城路カ-13号墳は4世紀後葉の積石木槨墓である。主槨からは26点もの硬玉製勾玉が出土した。頭部に沈線を刻んだものは16点あり、大部分が定型であるが、異形のものも1点ある。緑色透明で良質のものが多い。ローマングラス器や金製品を副葬した王陵の陪塚と判断される。皇南大塚は、南北に円墳を接続した全長120mの瓢形墳である。南墳では、主槨の被葬者が金銅製冠をはじめとする各種装身具や環頭大刀を着装していた。硬玉製勾玉は40点出土した。大部分が定型であるが、銜帯装飾に異形勾玉1点がみられる。冠に付けられた勾玉のうち、確認できた5点すべては緑色透明で、半月形が4点ある。被葬者は副葬品等の年代から458年に没した訥祇王とみる。皇南大塚北墳の被葬者は、各種装身具のみを着装し、「夫人帯」銘の銀製銜帯などから訥祇王妃とみられる。硬玉製勾玉は121点あり、一つの古墳からは最多である。金冠に付けられた77点は、大部分が緑色透明で良質な定型勾玉である。金冠塚は積石木槨墓であり、金冠をはじめとする各種装身具などが出土した。硬玉製勾玉は115点出土した。金冠につけられた勾玉は大部分が定型であるが、白色不透明なものが多い。また、単独で副葬されたものは大型品が多く、よく磨かれた定型

勾玉である。5世紀末の王族墓である。瑞鳳塚は積石木槨墓であり、被葬者は各種装身具を着装していた。硬玉製勾玉は46点出土した。6世紀初めの王族墓と推定される。天馬塚は積石木槨墓であり、被葬者は各種装身具を着装していた。75点の硬玉製勾玉が出土したが、白色不透明なものが多い。6世紀初めの王族墓とみられる。金鈴塚は積石木槨墓であり、被葬者は各種装身具を着装していた。硬玉製勾玉は11点出土した。6世紀初めの小児の王族墓とみられる。飾履塚は積石木槨墓であり、被葬者は各種装身具を着装していた。硬玉製勾玉は3点出土し、6世紀初めの王族墓とみられる。このほか、7・8世紀の皇龍寺や芬皇寺、仏国寺では、舍利莊嚴具として硬玉製勾玉が出土した。

【慶山】林堂洞古墳群の大型墳からは、金銅製冠をはじめとする各種装身具、金銅製環頭大刀などが出土した。硬玉製勾玉は林堂G6号墳・7A号墳・7C号墳、造永1A-19号墳・C I号墳・C II号墳などの4世紀後葉前後の古墳と、造永E I-1号墳・林堂2北号墳・5B1号墳などの5世紀中・後葉の古墳から30点出土した。4世紀初めの造永1A-19号墳主槨からは硬玉製勾玉が3点出土した。5世紀前葉の林堂7A号墳から出土した頸飾りは、ガラス製丸玉・金層ガラス玉などと硬玉製勾玉4点からなる。

【梁山】北亭里古墳群の夫婦塚は、5世紀後半の大型横口式石室である。被葬者夫婦と殉葬者3名が合葬されていた。夫婦は金銅製冠をはじめとする各種装身具を着装し、硬玉製勾玉が1点出土した。殉葬者の頸飾りには硬玉製勾玉が2点みられる。金鳥塚は5世紀後半の横口式石室である。被葬者は女性と推測される。装身具類には金銅製冠や銀製銜帯などがある。硬玉製勾玉2点は頸飾りに使用され、淡緑色の不透明な色調を呈する。よく磨かれており比較的良質である。

(2) 加耶

【金海】大成洞古墳群は金官加耶の王陵を含む中心古墳群である。4世紀前葉の18号墳では、頭部左から良質の硬玉製勾玉1点と、碧玉製管玉8点が出土した。4世紀前葉の88号墳からは晋式帯金具や巴形銅器、筒形銅器などとともに硬玉製勾玉が1点出土した。71号墳からは頭部に沈線を刻んだ半月形勾玉1点が、碧玉製管玉1点とともに出土した。3号墳からは硬玉製勾玉2点が出土し、未報告の41号墳で1点、94号墳で2点が出土した。

【釜山】福泉洞古墳群において硬玉製勾玉が出土した古墳は、4世紀初めから5世紀代まで確認できる。4世紀初めの80号墳では全長4.6cmの大型硬玉製勾玉1点に、水晶製切子玉と金屬ガラス玉が共伴した。勾玉は頭部に沈線を2～3条刻み、C字形をなす。今のところ韓国で最も古いものとみられる。4世紀前葉の38号墳からは、丸みのある断面でよく磨かれた緑色透明の硬玉製勾玉が1点出土した。メノウ製鎌形石製品、滑石製勾玉、ガラス製勾玉を含む頸飾り、筒形銅器が共伴した。4世紀中葉の54・57号墳では頸飾りに用いられた硬玉製勾玉が各1点出土し、71号墳からは筒形銅器とともに硬玉製勾玉が出土した。4世紀末の22号墳からは白色不透明で、頭部と尾部が角張った硬玉製勾玉が1点出土した。5世紀初めの1号墳からはガラス製玉類とともに硬玉製勾玉が2点出土した。5世紀前葉の53号墳からは硬玉製勾玉2点が、5世紀中葉の15号墳からは硬玉製勾玉3点が出土した。

【高霊】池山洞古墳群は、主山の尾根頂部と傾斜面に数百基が造営された大加耶の中心古墳群である。5世紀前葉には尾根端部に73・75号墳が、5世紀後葉には尾根頂部に大型墳の44号墳、6世紀初めには45号墳と47号墳の王陵が造営された。5世紀前葉の73号墳は径23mの円墳である。龍鳳文環頭大刀や馬具とともに、頸飾りを構成する硬玉製勾玉が8点出土した。5世紀末の44号墳は径27mの円墳で主槨と副槨2基、殉葬槨32基からなる。竪穴式石槨からは夜光貝製容器や百濟産銅鏡とともに硬玉製勾玉が1点出土した。6世紀初めの45号墳は径28mの円墳で主・副槨と11基の殉葬槨からなる。主槨および副槨から計6点の硬玉製勾玉が出土した。6世紀初めの47号墳は径49mの竪穴式石槨墓である。銀製冠帽などとともに硬玉製勾玉5点が確認された。池山洞古墳群の硬玉製勾玉は、盗掘されていない73号墳例をみる限り、本来はもっと多かったと推測される。

【陝川】玉田古墳群は調査された100余基のうち、5世紀中葉から6世紀初めまでの11基から計83点の硬玉製勾玉が出土した。慶州以外の古墳群のなかで最も出土量が多い。5世紀中葉のM2号墳からは金製耳飾りなどとともに、頸飾りを構成する硬玉製勾玉が9点出土した。5世紀後葉のM4号墳からは金製耳飾り、龍鳳文環頭大刀とともに34点の硬玉製勾玉が出土した。頸飾りAは硬玉製勾玉20点からなる。勾玉は3.0cm以上の大きさで、頭部に沈線を刻んだ定型が多い。頸飾りBは硬玉製勾玉14点を中心とし、全長1.0～1.2cmで比較的小型である。6世紀初めのM6号墳は金銅冠が副葬され、頸飾りは硬玉製勾玉8点を中心に構成される。

(3) 百濟

【瑞山】富長里5号墳は周辺古墳とは異なり、墳

丘頂上部に埋葬施設が1基のみであり、金銅製冠帽や金銅製耳飾りなどが出土した。遺物の質量とも他の古墳に比べ優れている。硬玉製勾玉が1点出土した。全長4.2cmの定型で乳白色に緑色が混じる。同墳は5世紀前葉の地域首長墓である。

【公州】水村里Ⅱ-2号墳は木槨墓である。金製垂飾付耳飾りと頸飾りが出土した。硬玉製勾玉は頸・胸飾りの一部を構成し、全長3.7cmの定型である。白色と緑色が混ざった色調を呈する。被葬者は硬玉製勾玉をはじめとする装身具からみて、冠帽と飾履などが出土した1号墳の被葬者と関連する5世紀初めの女性と推定される。武寧王陵は百濟25代の武寧王夫婦の墓である。径20m内外の円墳で埋葬施設は磚築墓である。高野槨でつくった木槨とその周辺から多種多様な遺物が出土した。墓誌には王が523年、王妃が525年に没したとある。王の遺骸部からは多くの装身具が出土しており、硬玉製勾玉は金製垂飾付耳飾りの垂飾として使用された。淡緑色を呈し、頭部に金帽を被せる。王妃の遺骸部にも多くの装身具がみられるが、硬玉製勾玉は16点出土した。このうち、7点は金帽を被せており、3点は頭部に沈線を刻んだものである。

【扶余】王室関連寺院の王興寺址（577年建立）木塔の舍利莊嚴具には、硬玉製勾玉7点が含まれる。

【益山】王室関連寺院として639年に建立された弥勒寺址石塔の舍利莊嚴具には、硬玉製勾玉1点が含まれる。武寧王陵出土品のように金帽を被せたものである。全長1.4cmを測り、緑色で透明度は高い。

【高敞】鳳德里1号墳4号石室からは金銅製飾履、中国製青磁、須恵器、硬玉製勾玉2点が出土した。

【完州】上雲里古墳群は墳丘墓160基の約46%にあたる74基から6000余点の玉類が出土した。硬玉製勾玉は11点出土した。ナ地区1-2号墓、ナ地区2-1号墓出土品のように頭部に沈線を刻んだものもあり、特に2-1号墓出土品は全長5.7cmの大型品である。硬玉が出土した古墳は、2-1号墓のように大刀と鍛冶具、鉄鋌を副葬した首長墓である。この遺跡の中心年代はナ地区4-6号墓出土の鏡と、ラ地区1-9号墓出土の有孔広口壺から5世紀前葉である。

【羅州】柴山江流域を代表する潘南面古墳群のなかで、新村里9号墳は立地や出土遺物からみて最高首長墓である。方台形の墳丘に甕棺11基が造営された。乙棺は9号墳のなかで最も華麗な装身具と環頭大刀などを副葬していた。硬玉製勾玉は2点出土した。庚棺からは硬玉製勾玉が2点出土し、このうち1点は頭部に沈線を刻んだものである。乙棺は飾履や大刀から6世紀初めに編年される。庚棺は乙棺にやや先行する。大安里9号墳は、潘南面一帯に造営された大安里古墳群のうち、最大規模を誇る方台形墳で甕棺9基が造営されていた。墳丘の中央に位置する庚棺は、9号墳甕棺のうち最も大きく、多量の遺物が出土した。硬

玉製勾玉は2点出土した。庚棺は新村里9号墳乙棺にやや先行する。伏岩里丁村古墳は、葺石をもつ方形の墳丘に石室3基、石槨3基、甕棺3基が造営された。このうち、5世紀後葉に築造された中心埋葬施設の1号石室は盗掘されておらず、金銅製飾履や環頭大刀などが出土した。このうち頸飾りに使用された硬玉製勾玉は3点ある。丁村古墳は伏岩里古墳群とは別の単独墳で、葺石と北部九州式の石室、須恵器などから被葬者は倭系とみられる。佳興里新興古墳は全長32.4mを測る前方後円墳形墳丘をもち、埋葬施設は竪穴系横口式石室である。単独墳で、沃野里方台形古墳と類似した石室構造をもつことから被葬者は倭系とみられる。築造時期は加耶土器からみて5世紀中葉と推定する。

【靈岩】靈岩沃野里方台形古墳は、長辺36mの方台形墳丘の中央に竪穴系横口式石室が築造された。石室からは帯金式甲冑片や鉄鏃などの鉄製品が多量に出土し、墳丘頂上部には埴輪を樹立していた。装身具は石室内から頸飾りを構成する硬玉製勾玉が1点出土した。勾玉は全長4.0cm、厚さ1.0cmほどで白色地に緑色が混ざる。第1号甕棺墓からは頸飾りに使用された硬玉製勾玉が1点出土した。同墳は新燕里古墳群とは別の単独墳であり、埴輪の樹立や帯金式甲冑の副葬から被葬者は倭系とみる。築造時期は出土した加耶土器からみて、5世紀前葉であろう。

【海南】月松里造山古墳は、径17mの円墳であり、墳丘中央の横穴式石室から銅鏡、ゴホウラ製釧、頸飾り、馬具類、環頭大刀などが出土した。硬玉製勾玉は1点あり、全長2.9cmを測る。白色に緑色が部分的に混じる。造山古墳は単独墳であり、北部九州式の石室からみて、被葬者は倭系とみる。

【高興】野幕古墳は、径約22mの楕円形墳であり、竪穴式石槨を埋葬施設とする。銅鏡や帯金式甲冑のほか、武器類、工具類、装身具類が副葬されていた。硬玉製勾玉は被葬者の足元の側壁付近から出土した。全長4.0cmを測り、乳白色で表面を滑らかに磨いており、光沢をもつ。野幕古墳は単独墳で、葺石をもつ墳丘と帯金式甲冑の副葬から、被葬者は倭系とみる。

3. 古代韓半島出土の硬玉製勾玉の時期別移入と歴史的背景

(1) 3～4世紀

韓半島では、4世紀初めの福泉洞80号墳において硬玉製勾玉が出現する。4世紀前葉の福泉洞38号墳から硬玉製勾玉とともに出土した瑪瑙製鏃形石製品や、大成洞18号墳から出土した緑色凝灰岩製紡錘車形石製品や碧玉製管玉のように、日本列島産文物が共伴しており、硬玉の産地が推定される。弥生時代以来日本列島において東・西地域間の交易品として使用された硬玉製勾玉が、三国時代になり韓半島との交易に使用されたものと推定する。韓半島の硬玉製勾玉は、西日本で硬玉製勾玉が使用された後に出現した。すなわ

ち、3世紀後葉の奈良県桜井茶臼山古墳以降、近畿地域を中心とする前期古墳に硬玉製勾玉が副葬されてから金官加耶に移入されたのであろう。さらに、硬玉製勾玉が出土した4世紀前葉の大成洞88号墳では晋式帯金具、銅矛、巴形銅器、筒形銅器、碧玉製石製品、銅鏃が共伴し、91号墳では前燕の青銅製容器と馬具、ローマングラス、琉球列島産の貝製品などが共伴しており、この時期の金官加耶が韓半島東南部の遠隔地交易を主導した事実とその位相がわかる。これによって、従来4世紀後半の日本列島に独自に移入したと把握されてきた奈良県新山古墳と兵庫県行者塚古墳出土の晋式帯金具が金官加耶を経由したことが明らかになった。さらに、後者には金官加耶産の鉄鋌、鉄鍔が共伴しており、この時期の金官加耶と倭の交流の様相を知りうる。

日本列島の金官加耶産鉄製品と、金海地域の王墓域である大成洞古墳群の巴形銅器をはじめとする畿内産文物は、この時期の金官加耶と倭王権の密接な交渉を象徴している。これは、狗邪国段階の対倭交渉の相手が、先史時代以来日本列島の窓口である九州勢力であったが、金官加耶の時期には畿内地域との交渉が本格的に開始したことを雄弁に物語る。

日本列島の王墓を含む有力な首長墓に副葬された巴形銅器を付けた盾、石製品、筒形銅器はこの時期の王権を掌握した奈良北部の佐紀勢力が特別に揃えて贈与したものであろう。特に、筒形銅器は金海大成洞古墳群を中心に、良洞里古墳群、福泉洞古墳群に集中し、その出土数は日本列島の出土数に肉薄することから、鉄資源を求める倭王権の切実な意図が読み取れる。

広開土王碑文の庚子(400)年条には、新羅城を侵犯した倭が高句麗軍に敗北したのち、任那加羅へ退却したとあり注目される。任那加羅は金海地域に比定されており、このような考古資料と文献史料は、日本の研究者が主張するような倭軍の独自のな外征と出兵ではなく、あくまで金官加耶、さらには百済と関連した動きであったことを物語る。なぜなら、倭独自の出兵であったとすれば、退却した場所、すなわち軍船を停泊した場所が慶州に近い迎日湾または蔚山湾でなければならなかったためである。ところが、倭軍が古金海湾に退却したのは金官加耶との共同作戦であったためである。倭は古金海湾を通じて敵良城、すなわち梁山を経て慶州に侵攻したのであろう。

一方、この時期の広開土王碑文にみられる倭を、畿内勢力でなく、韓半島南部の勢力、または日本列島の地域勢力とみる見解もあるが、玄界灘の福岡県沖ノ島祭祀遺跡では突如出現する碧玉製石製品や三角縁神獸鏡などと、大成洞古墳群の畿内産文物からみて、奈良北部の倭王権を主軸とする勢力であったことは明白である。特に、沖ノ島遺跡出土の畿内産文物は、倭の航海安全と戦勝を祈願する祭祀に使用されたとみられ

る。

金官加耶は高句麗・新羅の南進政策に対応するため、倭との同盟関係を利用したと推定する。この時期の倭が動員された背景は複雑であるが、そのなかには金官加耶の関係網に含まれていた東葉地域、すなわち福泉洞勢力に加わる新羅の影響力増大と、これとともにその圧迫に対する金官加耶の積極的な対応と攻勢が直接的な原因といえる。一方、新興勢力として登場した奈良北部勢力は金官加耶との提携を通じ、軍事力を提供するかわりに威信財と、鉄などの必需物資を確保することで、日本列島内で主導権を得たのであろう。

(2) 5～6世紀

新羅地域への硬玉製勾玉の本格的移入は、4世紀後葉の月城路カ-13号墳と林堂G6号墳の段階である。特に、前者は26点が副葬されている。これを契機として硬玉製勾玉が新羅古墳に多量副葬される。5世紀代の新羅王陵級の皇南大塚北墳、天馬塚、金冠塚、瑞鳳塚などに日本の古墳出土品を凌駕する硬玉製勾玉が出土している。金冠はそれぞれ77点、57点、57点、41点もの最上級の日本列島産硬玉製勾玉によって装飾されている。また皇南大塚南墳・北墳、天馬塚、金鈴塚出土の金製帯金具と頸飾りにも垂下飾として利用され、地方の大首長墓の梁山市夫婦塚、大邱市内唐洞55号墳、昌寧郡校洞7号墳にも副葬された。

5世紀前半の新羅と倭の交渉本格化は、400年の高句麗南征により鉄の流通を担当した金官加耶が衰退し、必需品である鉄や、新羅の金工品および新羅を経由した西域産のガラス製品のような威信財を確保するため、新たな交渉相手を必要とした倭の意図による。一方、金官加耶衰退後、日本列島との交易掌握とともに、従来の敵対関係を打開しようとする新羅の利害関係が合致したのであろう。当時倭が最も必要であった金製品、鉄製品とともに西域産ガラス製品を持つ最も近い国が新羅であった。倭人の新羅金工品に対する憧れは、『日本書紀』仲哀紀に、新羅を眼炎之金銀彩色の国と呼ぶことからわかる。

また、大阪誉田御廟山古墳の陪塚である丸山古墳に新羅産龍文金銅製鞍が副葬された点、皇南大塚北墳、金冠塚、天馬塚などに副葬された金冠および金製帯金具に付けられた硬玉製勾玉が糸魚川産である点は、王権間の交渉を象徴する。また、新羅産金銅製帯金具と日本列島産硬玉は着装型威信財である点と、両者が王権と地方との関係を象徴する政治的装身具としてそれぞれ活用された点もこのような交渉を示唆する。

『三国史記』には、新羅と倭の交戦記録が頻繁にみられるが、『三国史記』実聖王元(402)年条に未斯欣派遣による通交記事と、『日本書紀』応神31(420)年条、仁徳11(433)年条などの新羅工人派遣記事などは、新羅と倭の活発な政治的交渉を示唆する。特に、『日本書紀』允恭紀には、加耶や百濟との交渉記事が

なく、新羅との記事のみがみられ注目される。『日本書紀』允恭3年条の新羅への遣使、新羅からの医者派遣、允恭42年条の新羅からの弔問団の派遣記事は、当時の新羅と倭の相当な友好関係を反映する。

5世紀初めに、巨大前方後円墳の造営は奈良盆地から大阪南部に移動する。この5世紀を前後する時期に、新羅産文物が大阪南部に移入し、新羅地域に日本列島産文物が移入しており注目される。巨大前方後円墳の造営が奈良北部から大阪南部へ移動することについては、日本の学界では単に墓域が移動したとみる説と、新たな政権が成立した政権交替説に分かれて議論がなされているが、移動の外部的な要因は考慮されていない。筆者は、日本列島の金官加耶産文物、大成洞古墳群の畿内系文物のような考古資料と、倭が任那加羅へ退却した文献史料に依拠し、400年の高句麗との戦争の主体は上述したように、奈良北部の佐紀勢力とみている。

4世紀末～5世紀初めに造営された古市古墳群の仲津山古墳に隣接した鞍塚古墳や珠金塚古墳と、百舌鳥古墳群の上石津ミサンザイ古墳の陪塚である七観古墳に新羅産馬具、鉄鋌、鉄矛などが副葬されており注目される。これらの馬具は従来福泉洞古墳群出土馬具と類似することから、金官加耶産とされてきたが、その型式は慶州市皇南洞109号墳3・4槨出土馬具と併行する時期の新羅産であることが明らかだ。さらに、同時期の月城路カ-13号墳と林堂G6号墳出土品のように良質の硬玉製勾玉が突如出現している。

このように、4世紀末にはすでに大阪南部に新羅産馬具が移入され、新羅には日本列島産硬玉製勾玉が本格的に移入し注目される。なぜならこの時期を前後して、硬玉製勾玉が大阪府黄金塚古墳や珠金塚古墳などの大阪南部の古墳に主に副葬されていることから、新羅に移入した硬玉製勾玉は大阪南部勢力を通じて移入されたものと把握できるからである。珠金塚古墳では新羅産金製空玉が出土しており、両者が交易していたことがわかる。これは金官加耶と王権を掌握した奈良北部の佐紀勢力が交渉していた時期に、新たに台頭した大阪南部勢力がすでに新羅との交渉を開始していたことをあらわす。すなわち、巨大前方後円墳の造営が奈良北部から大阪南部に移動し、特に王陵である誉田御廟山古墳、大仙古墳が造営された時期に倭王権の交渉対象が金官加耶から新羅に替わったのである。誉田御廟山古墳の陪塚である丸山古墳の金銅製馬具が新羅産であり、大仙古墳出土の金装甲冑が新羅工人によって製作されており、新羅との交渉を契機に大阪南部の新興勢力である古市・百舌鳥古墳群築造集団が王権を掌握したものとみられる。

このような交渉の様相から、4世紀末に倭王権の中枢部を構成する二大勢力である奈良北部と大阪南部の対外交渉相手は、一方が金官加耶、もう一方が新羅

であることがわかる。つまり、それぞれ異なる交渉相手の盛衰が両勢力の興亡に決定的な影響を及ぼした。400年の高句麗南征の結果、金官加耶と同盟関係にあった奈良北部の佐紀勢力が敗退し、新羅と同盟した新興勢力である大阪南部勢力が王権を争奪した。

すなわち、筆者は巨大前方後円墳の奈良北部から大阪南部への移動は単なる墓域移動ではなく、政権が交替した結果と把握する。さらに巨大前方後円墳を築造した河内政権の隆盛は、新羅との交渉を通じた、必需物資である鉄や威信財である金工品と、先端技術を持つ工人の導入が重要な背景にあったものとみる。

5世紀後半の新羅では継続的に硬玉製勾玉がみられる反面、日本列島では新羅産金工品でない金銅製冠などの装身具や、金銅製f字形鏡板轡や剣菱形杏葉などの馬具をはじめとする大加耶産金工品が集中移入される。かわりに日本列島では京都府物集女車塚古墳、福井県十善の森古墳出土品のような斑点文ガラス玉を含む新羅産ガラス玉とこれを經由した西域産ガラス玉が日本列島全域に移入された。これを通じて5世紀後半～6世紀前半には新羅産ガラス玉と日本列島産硬玉製勾玉が交易されたものと推測され、この時期にも新羅と倭の交易は継続していた。

この時期の百済における硬玉製勾玉は従来武寧王陵以外に出土例が少なかったが、最近は増加している。11点の硬玉製勾玉が出土した完州郡上雲里遺跡についてみる。この遺跡の築造勢力を馬韓とみて、百済を經由せず硬玉製勾玉が移入されたとの見解がある。しかし、この遺跡の中心年代はさきに述べたように5世紀前葉である。この古墳群の硬玉製勾玉はその副葬時期と馬具が、百済王室の下賜品を多数副葬する水村里古墳群出土品と類似しており、同古墳群にも硬玉製勾玉が副葬されたことから百済を經由したとみる。

それゆえ、その他にもこの時期の高敞郡鳳德里1号墳、羅州市新村里9号墳などの有力首長墓で百済産金銅製威信財と硬玉製勾玉が共伴することから、やはり百済中央を經由したのであろう。これは新羅のように硬玉製勾玉が中央と地方との政治的関係を象徴する威信財として使用されたことを意味する。

ところで、倭系古墳では硬玉製勾玉の出土頻度が高く注目される。霊岩郡沃野里方台形古墳、高興郡野幕古墳、羅州市佳興里新興古墳のような5世紀前半の倭系古墳は、在地の首長系列とは関係なく突然出現し、1世代のみ築造される点、葺石と埴輪が確認される点、日本列島産武器と武器を副葬する点から被葬者は倭人の武将とみられる。これは『三国史記』腆支王元(405)年に倭に滞在していた腆支王が帰国する際、倭の軍使100名が護衛したとの記録と関連するものであろう。5世紀末～6世紀初めの羅州市伏岩里丁村古墳、海南郡月松里造山古墳は、栄山江流域に前方後

円墳が築造された時期の古墳である。これは475年漢城陥落後の百済の政治的状況と関連する。このように倭系古墳において特に硬玉製勾玉の出土頻度が高いことはその存在自体が倭との関連を象徴する。百済地域における硬玉製勾玉は現在確認されたのは70点前後にすぎず、新羅とは比較にならないが、武寧王陵に16点が確認され、近年各地の首長墓からの出土例が増えていることから、政治的威信財として使用したことがわかる。

4. 古代韓半島出土硬玉製勾玉の歴史的意義

新羅・加耶古墳から出土した硬玉製勾玉は、発掘調査で確認されたもので現在のところ780点に達する。特に注目されるのは、新羅古墳における出土量である。王陵の皇南大塚では161点、王族級墓の金冠塚・天馬塚・瑞鳳塚ではそれぞれ115点・75点・46点が出土した。このことから、大陵苑古墳群の硬玉製勾玉の副葬量を推定すると、401年に没した奈勿王から513年没した智証王までの王陵が6基造営されており、皇南大塚の例からみて王陵と王妃陵にはそれぞれ100点前後が副葬されたと推定すれば、約1000点に換算される。それ以外に王族級墓は約50基とみて、それぞれ50点前後が副葬されたとして、合計3500点と推算できる。これにより、新羅に移入された硬玉製勾玉の数は大陵苑以外の慶州地域と、新羅の地方の副葬品を加えれば約5000点前後とみても過言ではない。これは日本の古墳時代出土の硬玉製勾玉の数に匹敵するであろう。さらに121点の糸魚川産硬玉製勾玉が出土した皇南大塚北墳では、111点の琉球列島産イモガイ製馬具が出土しており、このような事例は日本列島でも確認できない。特に王陵級の皇南大塚北墳、金冠塚、天馬塚出土の6点の夜光貝製容器はこれを象徴する。

硬玉製勾玉が韓半島産という説は根強いが妥当な論拠を見出せない。硬玉産地の有無、硬玉製勾玉の出現時期や変化様相などから、日本列島産であることは明らかで、むしろこの点に大きな歴史的意義を見出した。すなわち、新羅に移入されたと推定される数千点もの最上級の硬玉製勾玉こそが、新羅と日本の友好的な関係を象徴するものであり、これは倭王権が積極的に新羅との交流を願ったことを雄弁に語る。このような研究をもとに、今後新羅と倭の関係が新たに明らかになることを期待する。あわせて、硬玉製勾玉の数が新羅に比べて少ないためこれまで注目されなかった百済地域においても出土例が増加し、7世紀代にも王室寺院において硬玉製勾玉が確認できることから、将来的には百済と倭の関係についての研究も期待される。

皇南大塚北墳の金冠は、新羅金工技術と倭の玉作技術が調和をなした当代最高の造形美を備えた遺物である。これは古代新羅と倭の関係を象徴するものであり、ここから現在と未来の日韓関係を考えていきたい。

(本稿作成に林東美氏の協力があった。感謝の意を表する。)

参考文献

崔恩珠1986「韓国曲玉の研究」『崇実史学』4 (韓)
 早乙女雅博・早川泰弘1997「日韓硬玉製勾玉の自然科学的分析」『朝鮮学報』162
 大賀克彦2005「稲童古墳群の玉類について」『稲童古墳群』行橋市教育委員会
 門田誠一1989「日本と韓国における硬玉製勾玉についての再吟味」『日本海文化研究』
 朴天秀2007『加耶と倭 韓半島と日本列島の考古学』講談社選書メチエ

藁科哲夫ほか2008「韓半島玉類の理化学的分析と流通」『湖西地域 邑落社会の変遷』(韓)
 高橋浩二2012『古墳時代におけるヒスイ勾玉の生産と流通過程に関する研究』(科学研究費成果報告書)
 藁科哲夫ほか2010「完州上雲里遺蹟出土玉類の産地分析」『完州上雲里Ⅲ』全北大学校博物館
 朴天秀・林東美2013「新羅・加耶の玉」『韓国先史古代の玉文化研究』福泉博物館 (韓)
 朴天秀2016『新羅と日本』眞仁眞 (韓)



図1 三国時代の硬玉製勾玉出土遺跡
 (門田誠一 1989「日本と韓国における硬玉製勾玉についての再吟味」『日本海文化研究』より一部修正)

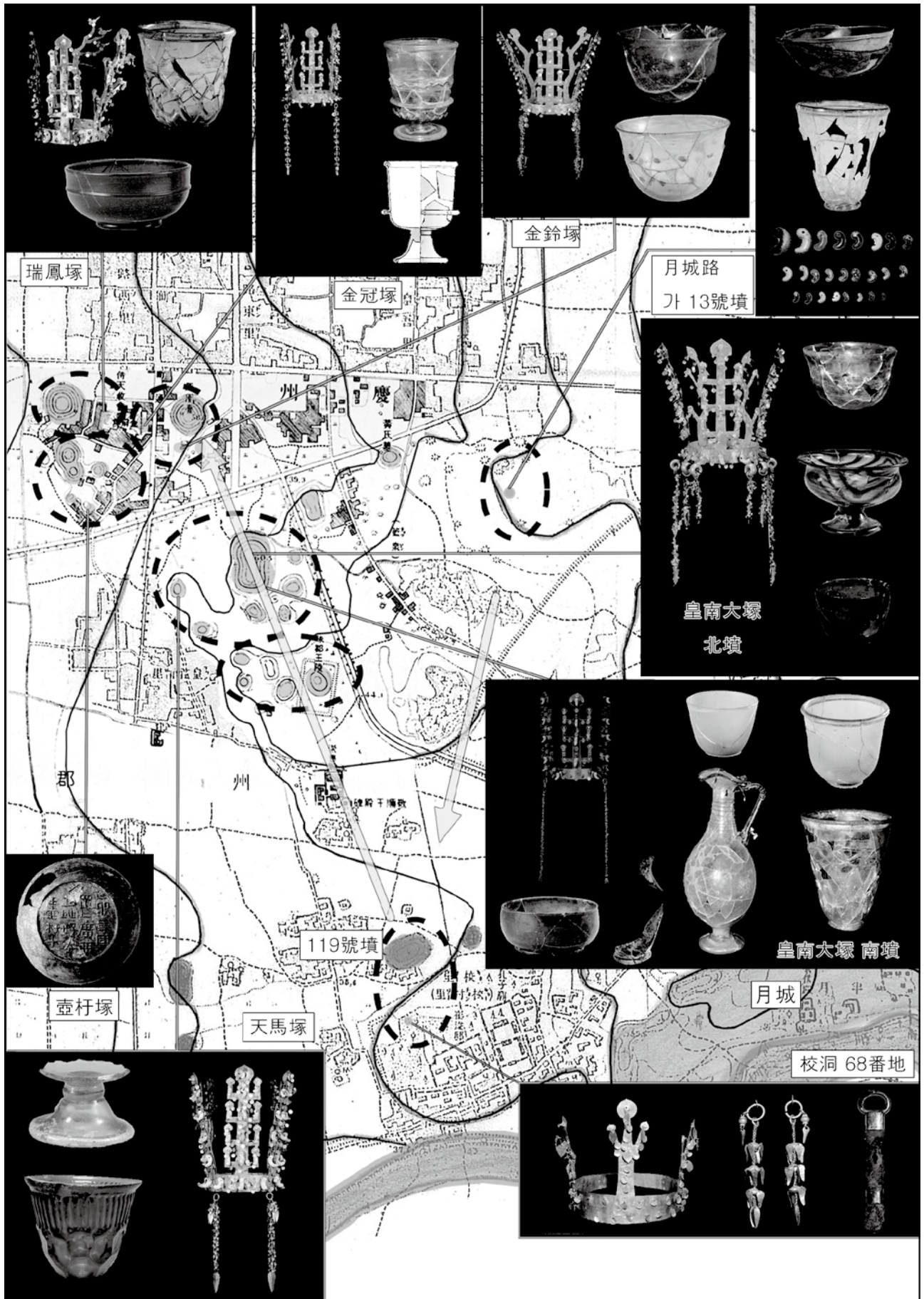


図2 慶州市大陵苑古墳群出土の金冠、ローマガラス器、硬玉製勾玉

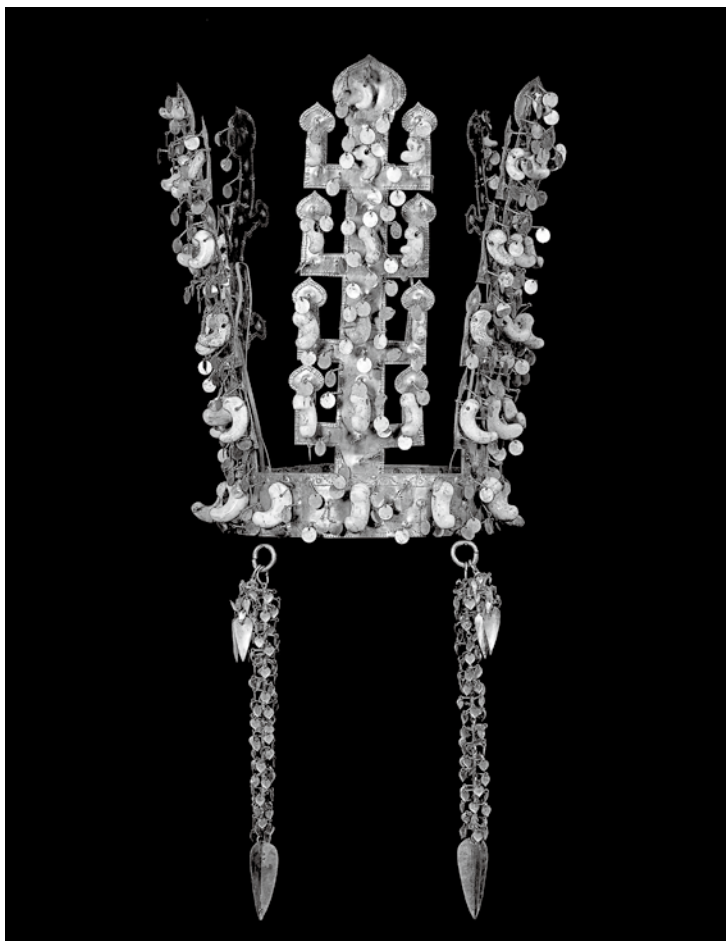


図3 慶州市皇南大塚北墳金冠（上）と天馬塚金冠（下）の硬玉製勾玉

福井県の外来系玉類

福井県

(福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 宮崎 認)

1. はじめに

福井県は、旧国で見ると、敦賀市以北の越前と、それより南の若狭の二国からなる。越前から北のコシでは、弥生時代中期以降、古墳時代前期まで玉作りが盛んに行われる地域であったが、中期になるとその生産は停止する。一方で、古墳時代中期以降、大型の前方後円墳を中心として、外来系玉類とよばれる玉類が古墳から出土するようになる。大きく北陸地方で概観しても、外来系玉類が出土しているのは、現状、福井県のみであり、大きな特徴であることがわかる。

2. 外来系玉類の種類と分布

福井県における玉類出土古墳は約100基確認できる(図1)。玉類生産の盛期であった弥生時代後期後半以降、突出した墳丘墓にも玉類の多量副葬が確認でき、古墳時代には首長層では一般的な装身具となっており、その死に際して副葬される対象であったものと考ええる。こうした中で、外来系玉類が出土する古墳数は、3古墳、外来系遺物(金製垂飾付耳飾など)と共伴する玉類副葬古墳が3古墳と極めて少なく、外来系玉類を有する階層が極めて限定されていることがわかる(表1)。

福井県で出土している外来系玉類は、装飾付ガラス玉(斑点文トンボ玉、二色重ねガラス玉等)と金属製玉類(空玉)の2種類が確認できる。装飾付ガラス玉が2古墳から23点、金属製玉類が3古墳から4点出土している。現状では、これら以外の外来系玉類は確認できていないため、多種にわたる外来系玉類が使用されていたとは考え難い。

具体的に外来系玉類と古墳の概要を見ていくと、越前では松岡古墳群中の泰遠寺山古墳から斑点文トンボ玉が2点出土している(図2)。この古墳は全長64mを測る帆立貝式古墳であり、コシを代表する首長墳である。トンボ玉は扁平な紺色丸玉を地玉とし、側面2ヶ所に緑色のガラスを象嵌するものである。その他にも玉類が出土しているが、これらが組み合せて装身具として使用されていたと推定できる。古墳時代中期でも5世紀中葉の年代は、列島内の斑点文トンボ玉導入初期であり、北陸で最古段階の斑点文トンボ玉が出土していることに大きな意味がある。越前では、泰遠寺山古墳以降、現在までのところ外来系玉類は確認できていない。

若狭では、十善の森古墳から装飾付ガラス玉21点、銀製空玉1点が出土している(図3)。十善の森古墳は、5世紀代の若狭を治めた西塚古墳群に後続する首長墳で、全長67mの前方後円墳である。5世紀末～

6世紀初頭の時期にあたり、冠帽や馬具など、百済・新羅を含めた豊富な朝鮮半島系遺物が共伴する。装飾付ガラス玉は、斑点文トンボ玉が19点、二色重ねガラス玉が1点、特殊な緑色ガラス象嵌玉が1点出土している。銀製空玉も1点出土している。玉類はこれ以外にも例えば小玉が4000点以上と豊富に出土している。外来系玉類はこうした玉類と組み合わせられ、複数の装身具をなしていたものと推定できる。斑点文トンボ玉は、紺色丸玉を地玉として、青緑色および黄色のガラスを象嵌するものである。北陸では、現在までのところ十善の森古墳以降斑点文トンボ玉の出土が確認できないが、このタイプの斑点文トンボ玉が、6世紀の日本国内で最も普遍的に出土している。

十善の森古墳以降の古墳の中では、大谷古墳から金銅製空玉が3点出土している。直径約28mの円墳で、同時期の若狭の中では比較的大型ではあるものの、広域を統べる首長墳ではない。

このように北陸における外来系玉類の出土数は決して多くはなく、むしろ少数である。しかしながら、新羅製と考えられている装飾付ガラス玉が、コシや若狭を統括し、おそらく朝鮮半島と直接交流を持った階層の古墳から限定的に出土していることは意義深い。

朝鮮半島の事例と比較すると、新羅地域で首飾りとしてセット関係を成すものが、装飾付ガラス玉と銀製空玉と琥珀製棗玉である。十善の森古墳出土玉類のセット関係は、武寧王陵、慶州の皇南大塚などの構成と共通している。また、これまで指摘されていなかったが、泰遠寺山古墳出土品では金属製玉を欠くものの、ガラス製棗玉を構成に含んでおり、十善の森古墳より前段階の連構成を示すものではないかと考える。

福井県では、こうした外来系玉類が直接出土していないものの、外来系遺物と共伴する玉類が出土している事例が確認できる(写真1～6)。越前では、福井市天神山7号墳で、金製垂飾付耳飾とセットでガラス小玉とガラス勾玉が使用されている。天神山7号墳の玉は金製垂飾とともに垂飾として使用されていたものであろう。若狭では、向山1号墳や西塚古墳で金製垂飾付耳飾とともに玉類が出土している(写真1・2・4・5)。これらの玉類は、耳飾りとして使用されていた可能性は低いと考えられるが、一見すると国内製品と考えられる玉類のなかに、外来系遺物が含まれている可能性がある。また、これら3古墳とも各地域で泰遠寺山古墳や十善の森古墳に先行する古墳であり、明確に時期差がある上に、交流をもった地域が異なることも間違いない。

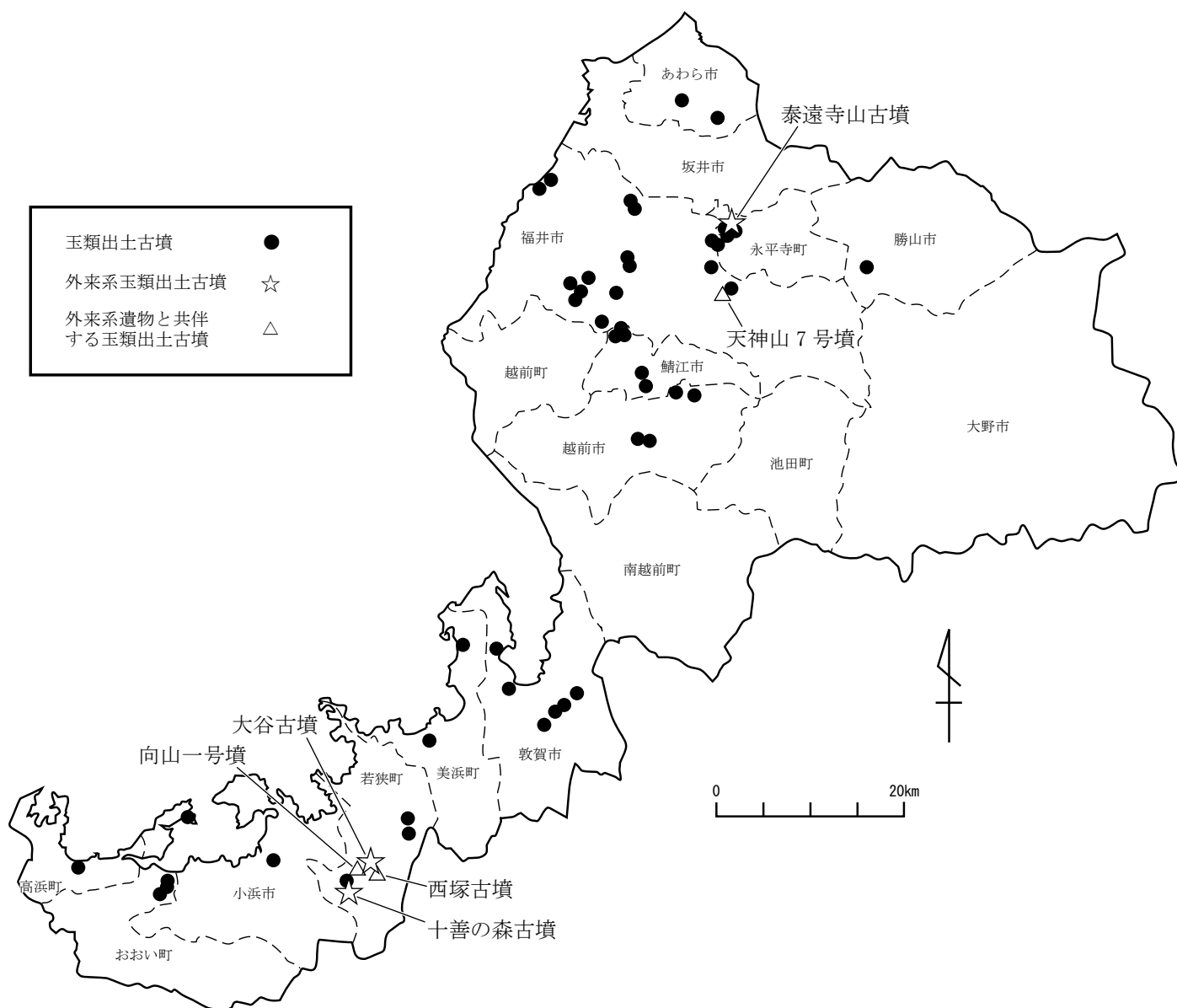


図1 福井県における玉類出土古墳分布図

表1 外来系玉類と共伴玉類

古墳名	所在地	外来系玉類	勾玉				橐玉		管玉		丸玉 ガラス	小玉 ガラス	朝鮮半島の 関連遺物
			ヒスイ	ガラス	碧玉	メノウ	ヒスイ	琥珀	ガラス	碧玉			
天神山7号墳	福井市		●	●							●	金製垂飾付耳飾	
泰遠寺山古墳	永平寺町	装飾付ガラス玉2	●	●	●		●		●	●	●		
向山1号墳	若狭町				●	●		●		●	●	金製垂飾付耳飾	
西塚古墳	若狭町			●						●		金製垂飾付耳飾	
十善の森古墳	若狭町	装飾付ガラス玉21 銀製空玉2	●	●			●	●		●	●	金銅製冠帽他	
大谷古墳	若狭町	金銅製空玉3									●		

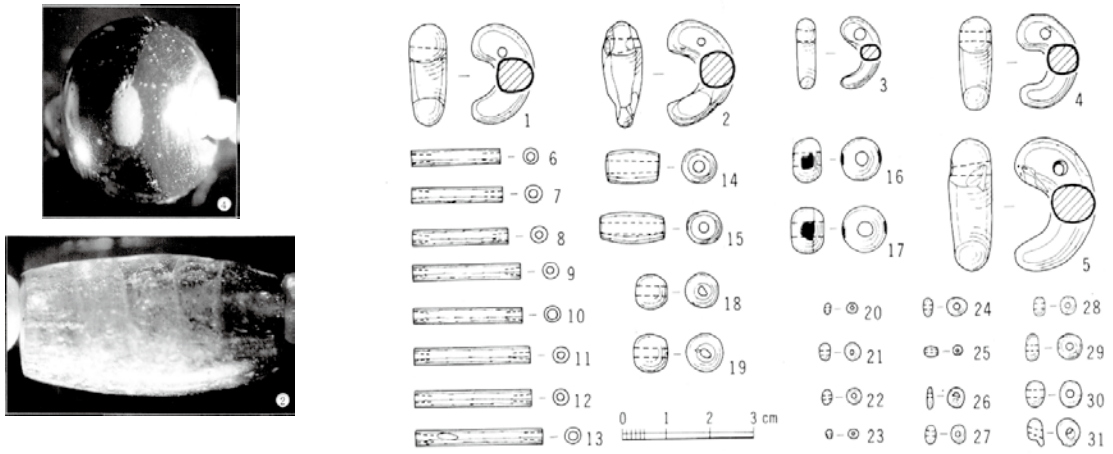


图2 泰遠寺山古墳 玉類



图3 十善の森古墳 玉類

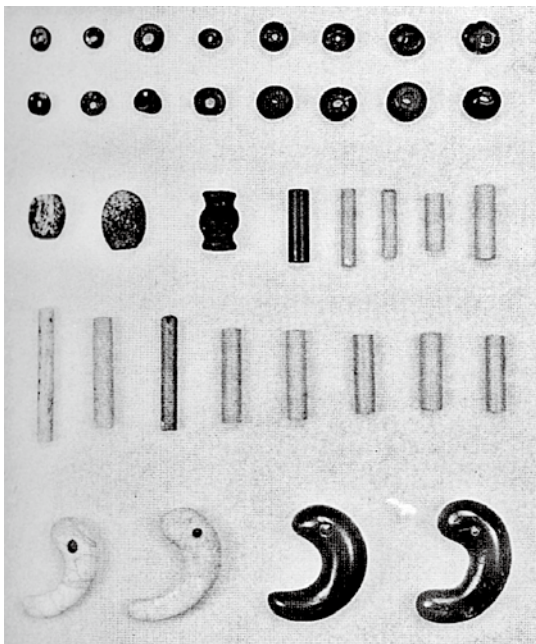


写真1 西塚古墳 玉類

写真2 向山1号墳 玉類

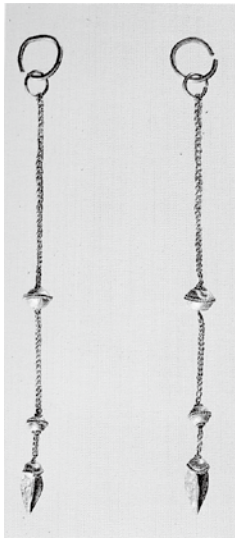


写真3 天神山7号墳 金製垂飾付耳飾



写真4 向山1号墳 金製垂飾付耳飾

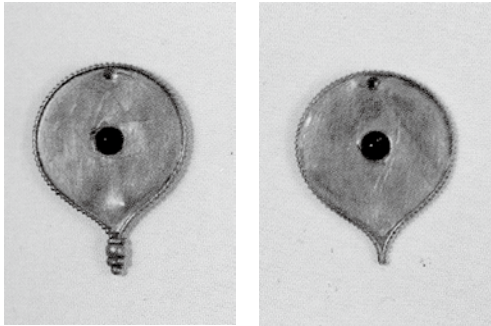


写真5 西塚古墳 金製垂飾付耳飾

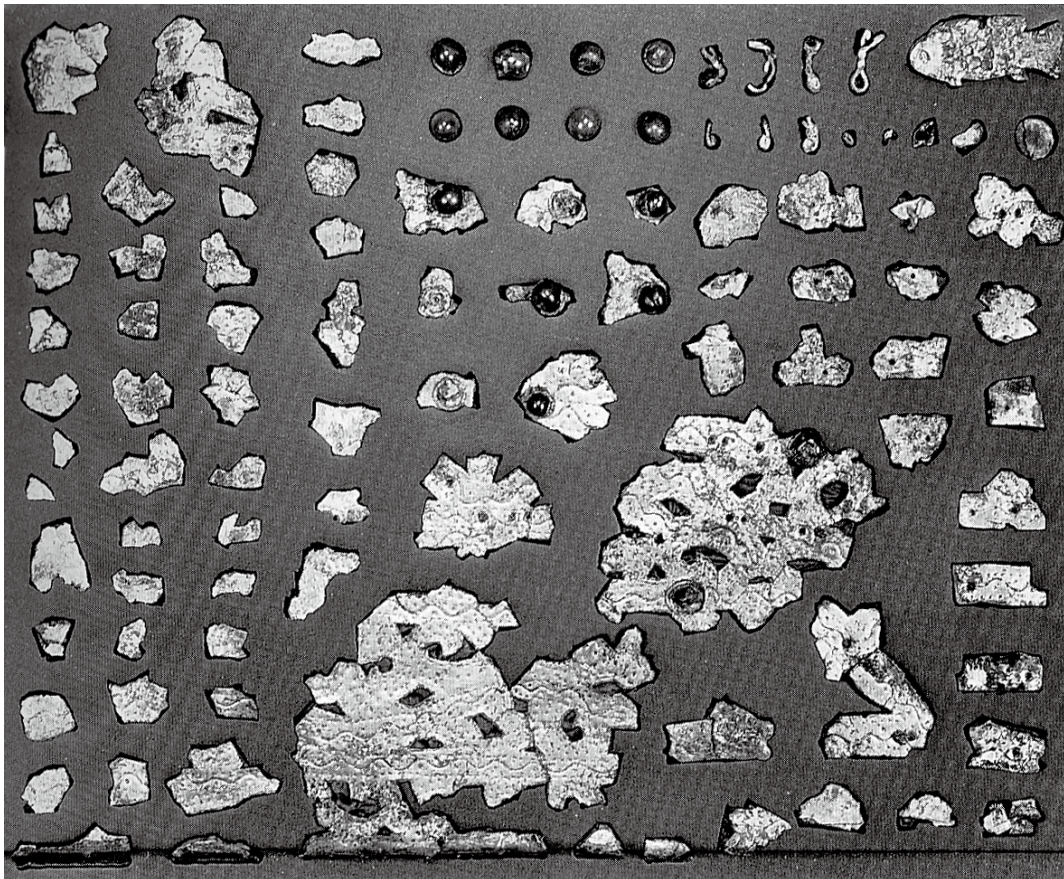


写真6 十善の森古墳 金銅製冠帽残片

奈良県の外来系玉類

奈良県

(奈良県立橿原考古学研究所 井上 主税)

1. 奈良県の外来系玉類の概観

奈良県において外来系玉類が出土した古墳は、現在48基である(表1)。外来系玉類は、金属製玉類が最も多く、このほか雁木玉2例、トンボ玉6例、重層ガラス玉4例、天河石製玉類2例、金属張飾玉1例、メノウ丸玉1例などがある。

古墳の分布は、奈良盆地の東部、東南部、南部、西南部に集中しており、北部では確認できない(図1・2)。盆地外では吉野川流域と宇陀地域にわずかにみられる。古墳の築造時期は5世紀から6世紀にかけてであるが、その大部分は6世紀代である。

【金属製玉類】 43基の古墳から出土している。5世紀の古墳は4基であり、残りは6世紀の古墳である。このうち、最も古い例が赤尾熊ヶ谷3号墳の銀製空玉で、5世紀前半に位置付けられる。この古墳からは後述するメノウ丸玉も出土しており、注目に値する。

金属製玉類には、金製、銀製、金銅製、青銅製の空玉がある。形態は通有の球形のほか、勾玉形、平玉形、有段形、梔子形、棗形、三輪玉形に分類できる。その多くは、銀製球形のものである。

【雁木玉】 新沢126号墳(5世紀中葉)と岡峯古墳(6世紀後半)から出土した。新沢126号墳の2点は、黄地に青色の縞模様がめぐるもので、日本列島出土の雁木玉のうち最古のものであろう。一方、岡峯古墳例は、白・緑・青色を縞状に配色したものである。

【トンボ玉】 6世紀代の古墳に副葬されている。6世紀前半の古墳は星塚2号墳、新沢204号墳、慈恩寺1号墳、市尾宮塚古墳が、6世紀後半の古墳は沼山古墳や真弓鐘子塚古墳が該当する。このほか、飛鳥寺や尼寺廃寺の塔心礎荘厳具にもトンボ玉がみられる。

トンボ玉は、紺地に黄色玉と緑色玉を象嵌したもの(星塚2号墳・新沢204号墳・沼山古墳)、紺地に緑色玉を象嵌したもの(新沢204号墳)、二色重ね(緑色と黄色)のもの(慈恩寺1号墳)などに分類できる。いずれも新羅地域に類例が求められる。

【重層ガラス玉】 重層ガラス玉には、内部に金箔をはさみこんだもの(金層)と銀箔をはさみこんだもの(銀層)がある。金層ガラス玉は、新沢126号墳、星塚2号墳(6世紀前半)、鴨山古墳(6世紀前半)で出土している。

【天河石製玉】 これまでヒスイとして認識されて

いた玉であるが、奈良県内でその存在をはじめて確認した。澤之坊2号墳例(4世紀)とホリノヲ2号墳例(6世紀前半)が該当する。

天河石(アマゾナイト)は、朝鮮半島青銅時代の玉類に使用された石材であり、日本列島では弥生時代前期の北部九州を中心にみられる。その後、長い伝世期間において、副葬(もしくは再利用)されたものと推測される。この問題については、同じ副葬パターンを加耶古墳(陝川玉田古墳群)でも最近確認した。そのため、天河石製玉が伝世された場所が朝鮮半島なのか、日本列島なのか検討する必要がある。

【金属張飾玉】 星塚2号墳出土の金張飾玉がある。梔子形のガラス玉に金箔が張られていたとみられる。

【その他の玉】 赤尾熊ヶ谷3号墳でメノウ丸玉8点が出土した。形状の個体差が大きく、穿孔部がえぐれたものもある。

2. 外来系玉類副葬古墳の特徴

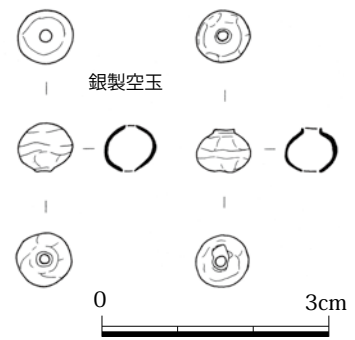
外来系玉類を副葬した古墳を5世紀と6世紀に分けて、それぞれの特徴を指摘する。

5世紀の古墳は少ないが、朝鮮半島と直接的に関わる被葬者が想定される。新沢126号墳は、ガラス器や各種金製装身具などから被葬者を渡来人とみることに異存はない。また、鳥見山北麓に所在する赤尾熊ヶ谷3号墳は金属製玉類をいち早く導入し、近接する赤尾崩谷1・3号墳においても金属製玉類や垂飾付耳飾りが副葬されており、朝鮮半島と関連深い地域といえる。

6世紀の古墳は、大きく(A)首長墳と(B)群集墳に分かれる。(A)首長墳には、6世紀前半代の星塚2号墳、額田部狐塚古墳、市尾墓山古墳、市尾宮塚古墳、6世紀後半代の大和二塚古墳、藤ノ木古墳、牧野古墳などが該当する。(B)群集墳は、新沢千塚古墳群、巨勢山古墳群、寺口忍海古墳群、石上豊田古墳群などが該当する。(B)には、釵子や指輪、鍛冶具などの渡来系遺物をとまなう例が半数近くある。このほか、(A)や(B)とも異なる特殊な一群(C)も存在する。それはドーム状の天井をもつ横穴式石室を埋葬施設とし、6世紀後半を中心に明日香村や高取町に分布する。沼山古墳、与楽鐘子塚、真弓鐘子塚が該当する。(C)の被葬者は石室構造や副葬品から渡来系とみられ、飛鳥地域の宮や寺院の造営に関わった技術者集団との評価もある。



新沢126号墳
榎原考古学研究所編著1977
『新沢千塚126号墳』より



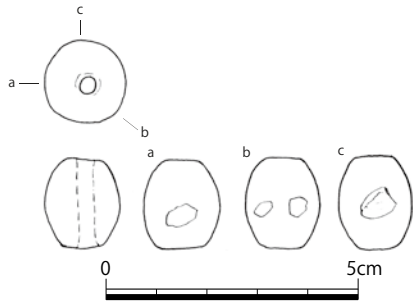
赤尾熊ヶ谷3号墳



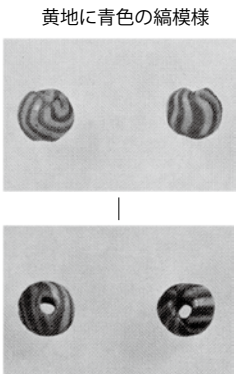
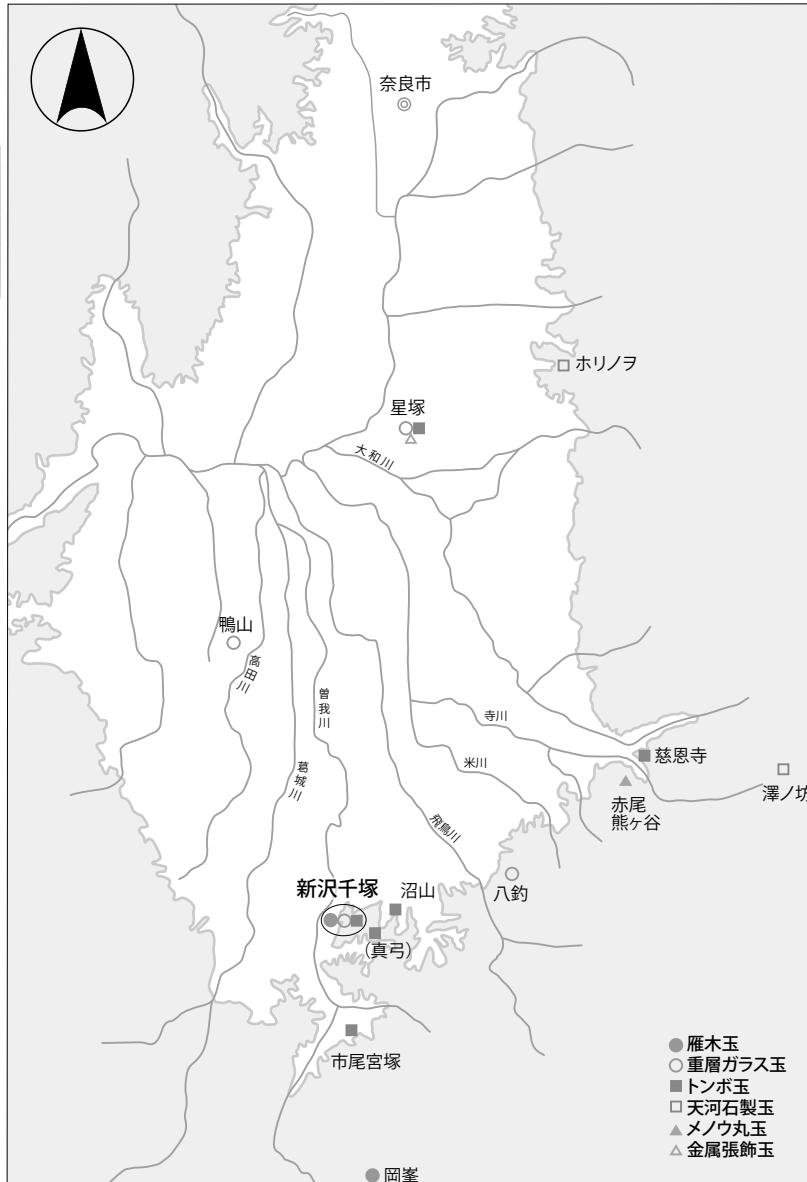
装飾付空勾玉
(勾玉の頭と尾に
ガラス玉が付く)



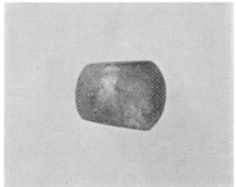
図1 金属製玉類の分布とその代表例



沼山古墳
トンボ玉



新沢126号墳
雁木玉



新沢126号墳
金属ガラス玉



ホリノヤ2号墳
天河石製勾玉



岡峯古墳
雁木玉

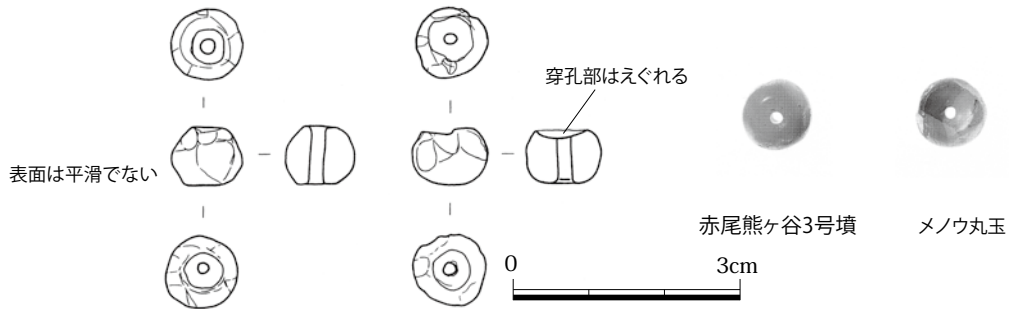


図2 その他の外来系玉類の分布とその代表例

表1 外来系玉類一覽表

番号	古墳名	所在地	出土遺構	時期	出土玉類	点数	使用法	備考
1	澤ノ坊2号墳	宇陀市	表土層・堆積土層	4世紀	天河石加工品	1		前方後円墳30~40
2	赤尾熊ヶ谷3号墳	桜井市	木棺直葬棺内	5世紀前半~中頃	銀製空玉 メノウ丸玉	3 8		方墳16×15
3	新沢千塚126号墳	橿原市	木棺直葬棺内	5世紀中頃~後半	金製空玉 銀製空玉 金層ガラス玉 雁木玉	2 40 1 2	連2、首飾り(ヒスイ勾玉、ガラス玉) 連3、首飾り	方墳24×15 垂飾付耳飾り、冠飾、帯金具、指輪、腕輪、熨斗、ガラス器
4	赤尾前谷1号墳	桜井市	木棺直葬(埋葬施設3)棺内	5世紀後半	銀製空玉 金銅製空玉	4 4	連:首飾り 左上腕部	方墳16 垂飾付耳飾り、陶質土器
5	赤尾前谷3号墳	桜井市	木棺直葬棺内	5世紀後半	銀製空玉		撒かれた	方墳11
6	寺口忍海H-39号墳	葛城市	横穴式石室	6世紀前半	銀製空玉	数個	首飾り(碧玉勾玉・碧玉管玉)	墳形不明
7	石光山46号墳	御所市	木棺直葬墓(第一)	6世紀前半	銀製空玉	3	首飾り(碧玉管玉)	方墳15
8	巨勢山75号墳	御所市	横穴式石室	6世紀前半	銀製空玉	1		円墳不明 釵子
9	巨勢山タケノウチ4支群16号墳	御所市	横穴式石室	6世紀前半	金製空玉?			円墳13.5×15 銀製指輪2
10	芝塚2号墳	葛城市	横穴式石室 石棺内・周辺	6世紀前半	銀製雲形空玉	3		円墳25、垂飾付耳飾り?
11	市尾墓山古墳	高取町	横穴式石室	6世紀前半	銀製空玉	6		前方後円墳70
12	額田部孤塚古墳	天理市	木棺直葬(中央棺)	6世紀前半	銀製空玉			前方後円墳50、冠飾
13	新沢千塚204号墳	橿原市	横穴式石室、攪乱土	6世紀前半	銀製空玉 トンボ玉	20 6		円不明
14	外鎌山北麓古墳群慈恩寺1号墳	桜井市	木棺直葬棺内	6世紀前半	銀製裝飾付中空勾玉 銀製空玉 トンボ玉	7 64 2		緑と紺色の半環状のガラス玉を先端に付ける。 前方後円墳45、指輪
15	星塚2号墳	天理市	横穴式石室	6世紀前半	トンボ玉 金層ガラス玉 金張りガラス玉	2 1 1		前方後円墳40、 垂飾付耳飾り、陶質土器
16	小山2号墳	葛城市	横穴式石室(奥)家形石棺 横穴式石室 家形石棺外 横穴式石室(前)家形石棺	6世紀前半 6世紀後半	銀製空玉 銀製有段空玉 銀製空玉 銀製有段空玉	1 2 18 23		円墳30 1点は原位置か
17	市尾宮塚古墳	高取町	横穴式石室	6世紀前半	銀製空玉 トンボ玉			前方後円44
18	寺口忍海H-12号墳	葛城市	横穴式石室	6世紀前半	銀製空玉	1		墳形不明、鑑子
19	ダケ古墳	宇陀市	縦穴式石室攪乱土	6世紀前半	銀製空玉	1		前方後円墳48
20	八釣マキト1号墳	明日香村	横穴式石室	6世紀前半	銀製有段空玉 重層ガラス玉	10 1		円墳18
21	ホリノヲ2号墳	天理市	横穴式石室	6世紀前半	天河石製玉	1		円墳16~18、鍛冶具
22	鴨山古墳	広陵町	箱式石棺	6世紀前半	銀製空玉 金層ガラス玉		連、首飾り(雲玉)	墳形不明
23	ホリノヲ5号墳	天理市	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉	1		円墳15
24	珠城山1号墳	桜井市	横穴式石室	6世紀後半	金銅製中空勾玉 銀製空玉	26 12		前方後円墳20
25	高家一ツ橋古墳	桜井市	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉	2		円墳17、銀鐸?
26	樺山古墳(首子1号墳)	葛城市	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉	1		円墳20
27	大和二塚古墳	葛城市	前方部石室	6世紀後半	金製空玉 銀製空玉	9 2		前方後円墳60、鉄鍔
28	沼山古墳	橿原市	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉 トンボ玉	2 4		円墳18、ミニチュア煮炊き具
29	大谷今池2号墳	大和高田市	木棺直葬(第3)棺内	6世紀後半	金銅製空玉		首飾り?	人Bにともなう、円墳24
30	巨勢山42号墳(ミノヤマ2号墳)	御所市	木棺直葬(東棺)	6世紀後半	銀製空玉	1	連、首飾り(埋木棗玉)	円墳15
31	北窪古墳群松原井枝群3号墳	御所市	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉			墳形不明 釵子、指輪
32	イノク16号墳	高取町	木棺直葬(第2)棺内	6世紀後半	空玉	10		円墳16
33	岡峯古墳	下市町	横穴式石室	6世紀後半	雁木玉	1	壺の中から出土	円墳15
34	真弓鑑子塚古墳	明日香村	横穴式石室	6世紀後半	トンボ玉?	1		径28、ミニチュア煮炊き具
35	新沢千塚272号墳	橿原市	木棺直葬(第2)棺内	6世紀後半	銀製空玉	8	連、首飾り?	前方後円墳35
36	寺口忍海H-34号墳	葛城市	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉	4		円墳15、鉄矛
37	藤ノ木古墳	斑鳩町	横穴式石室	6世紀後半	銀製鍍金中空勾玉 銀製半球形空玉 銀製鍍金楯子形空玉 銀製鍍金空丸玉(大) 銀製鍍金有段空玉 銀製鍍金空丸玉(小)	127 57 54 24 48 47	頭・北側被葬者 頭・北側被葬者 首・北側被葬者 首・北側被葬者 首・北側被葬者 首・南側被葬者	円墳50
38	上5号墳	明日香村	横穴式石室	6世紀後半	銀製空玉	1		円墳17、釵子、指輪、ミニチュア煮炊き具
39	ホリノヲ6号墳	天理市	横穴式石室	6世紀後半~未	銀製空玉	3	第1棺首飾り(コハク雲玉・埋木棗玉)	円墳9~10
40	珠城山3号墳	桜井市	横穴式石室(後円部)	6世紀後半~未	青銅製三輪玉	2		前方後円墳25
41	風呂坊3号墳	桜井市	横穴式石室	6世紀後半~未	銀製楯子形空玉	6		釵子
42	北今市1号墳	香芝市	石棺(北棺)内・周辺	6世紀後半~未	銀製空玉	6		円墳25
43	寺口忍海H-26号墳	葛城市	横穴式石室	6世紀後半~未	金銅製空玉	10	連(銅線による)	円墳9以上
44	龍王山古墳群D-1号墳	天理市	横穴式石室	6世紀末~7世紀初	金銅製空玉	1		円墳11
45	与楽鑑子塚古墳	高取町	横穴式石室	6世紀末~7世紀初	銀製空玉	1		円墳28ミニチュア煮炊き具
46	牧野古墳	広陵町	横穴式石室	6世紀末~7世紀初	金銅製楯子形空玉	12	連(銀線による)	円墳45
47	新沢太鼓山101号墳	橿原市	木棺直葬	?	金銅製空玉	3		円不明
48	寺口1号墳	葛城市	横穴式石室	?	銀製空玉			円不明

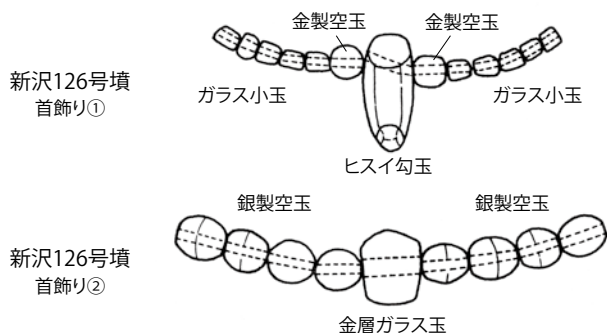


図3 首飾りの着装復元図

和歌山県の外来系玉類

和歌山県

(和歌山県教育庁文化遺産課 黒石 哲夫)

1. 和歌山県の古墳時代の外来系玉類の概観

和歌山県では、外来系玉類が出土した古墳は、現在17基である(図1・表1)。金属製玉類が大部分を占め、ほかにトンボ玉等が11点、重層ガラス玉が4点である。飾り金具に嵌め込まれたガラス玉も存在する。紀北地域に集中している。紀中では銅製玉類が2点みられる。

【金製玉類】(図2-(1)~(5)) 車駕之古址古墳の中空金製勾玉は、長さ1.8cm、頭部直径0.8cm、重さ1.8gで、金の他に銀と微量の銅を含む16金製である。2個の体部を中央で銀鑲付けしたもので、頭部には刻み目を付けた細い帯状のものを鑲付けして珠文状にしている。この文様帯は頸部に2回半巻き付けて孔に通した状態を示し、頭部に金糸を巻き付けて結んだ表現と推定されている。朝鮮半島では皇南大塚南墳・北墳、金冠塚、瑞鳳塚、玉田M4号墳から7点の出土が知られている。5世紀中頃から6世紀前半のものである。

花山6号墳から小型の金製球形空玉が出土している。金の薄板の半球形を2個つくり合わせたもので、両極に1mmの孔をあけている。径4.8mm・厚さ4.2mmである。

【銀製玉類】(図2-(9)~(11)) 銀製玉類には、銀地鍍金玉類と銀製玉類がある。形状には、球形空玉、扁平球形空玉、扁平六角形空玉、有段空玉、梔子形空玉がある。鳴滝1号墳では、銀地鍍金梔子形空玉25点・扁平球形空玉9点、銀製球形空玉12点が出土している。黒土古墳からは県内唯一の銀製有段空玉が3点出土している。大日山35号墳の梔子形空玉には藤ノ木古墳と同様に、細い銀線が遺存しており、これで繋がれていた。球形空玉や扁平六角形空玉は6世紀初頭から、梔子形空玉と有段空玉は6世紀前半以降出現する。

【銅製玉類】 銅製玉類は、紀北地域の船戸箱山古墳から金銅製球形空玉1点、紀中地域の秋葉山古墳から銅製球形空玉1点、祓井戸10号墳から銅製勾玉状製品1点が出土している。

【飾り金具のガラス玉】(図2-(6)~(8)) 大谷古墳からは、濃紺色のガラス玉が嵌め込まれた四葉形飾り金具が大小合わせて約50点と同様のガラス玉が嵌め込まれた鳩目金具約20点出土している。調査を担当された樋口隆康氏は、アフガニスタンのティラ・テペ遺跡で出土した金製冠の飾り金具の系統を引くものと推

定されている。天王塚古墳からも二等辺三角形の金銅の薄板にコバルト青色の半球形ガラス玉を挿入した垂飾が出土しており冠の一部だと考えられている。

【トンボ玉】(図3-(2)・(3)・(5)・(6)) トンボ玉は6世紀前半以降の首長墓で副葬が始まる。4種類みられる。井辺前山6号墳、トンボ玉8点・径0.8cm前後、紺地+黄色玉または白玉、二色重ねガラス玉1点・径0.6cm、黄地管玉+薄緑色ガラス巻付け。天王塚古墳、トンボ玉1点・径0.4cm、黄地+赤玉。山東22号墳、トンボ玉1点・径2.0cm、紺地+緑玉である。

【重層ガラス玉】(図3-(4)) 奥山田2号墳から出土したとされる重層ガラス玉が4点ある。そのうち2点は内部に銀箔を挟んだものである。

【その他ガラス玉】(図3-(1)・(6)) 大谷古墳から線刻を施した淡緑色の棗形ガラス玉が1点出土し、天王塚古墳からムディサラまたはインドパシフィックビーズと呼ばれる小型の赤褐色のガラス玉が2点出土している。これらも海外産の可能性が高い。

2. 玉類の出現時期と出土古墳の階層性

① 5世紀中頃の紀ノ川下流域の首長墓で金属製玉類・装飾品の副葬が始まる(半島製品の搬入開始)。**〔A〕** 車駕之古址古墳の金製勾玉、**〔B〕** 大谷古墳の銀製四葉形飾り金具、馬甲・馬冑、金銅装馬具、垂飾付耳飾、金銅装・銀装鍔板。

② 6世紀初頭に岩橋千塚古墳群の首長墓で金属製玉類・装飾品の副葬が始まる。**〔C〕** 花山6号墳の金製球形空玉、銀製球形空玉、銀製扁平六角形空玉、銀製垂飾。

③ 6世紀中頃以降に紀ノ川下流域各地の有力墓で金属製玉類と装飾品の副葬が始まる。**〔D〕** 鳴滝2号墳の銀製空玉、銀製垂飾、金銅製飾履、単鳳環頭太刀。**〔E〕** 山東22号のトンボ玉、金冠、銀象嵌鐔、銀製垂飾。**〔F〕** 船戸箱山古墳の金冠・金銅製玉類・各種玉類・飾り太刀。この時期の有力被葬者は、金冠・飾履・金属製玉類・各種玉類・飾り太刀・馬具・武具などをセットで副葬している。

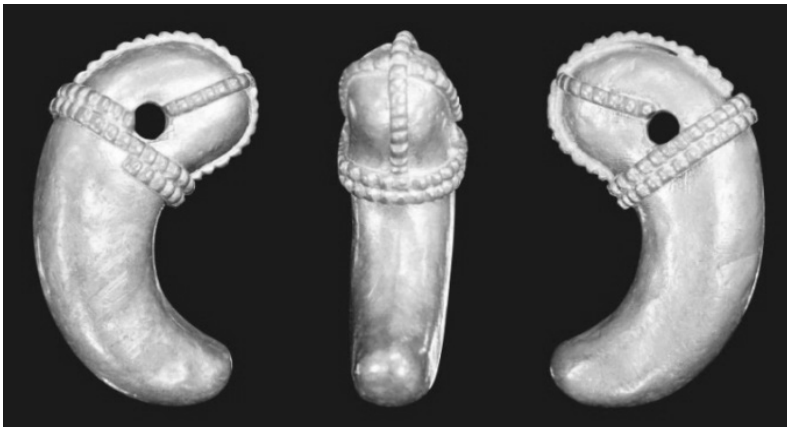
金属製玉類や特殊なガラス玉は、首長墓や大型円墳から多く出土している。これらの玉類は、朝鮮半島などからもたらされた可能性が高く、古代豪族紀氏の半島派遣が記された日本書紀や古事記の文献の記述と符合する。



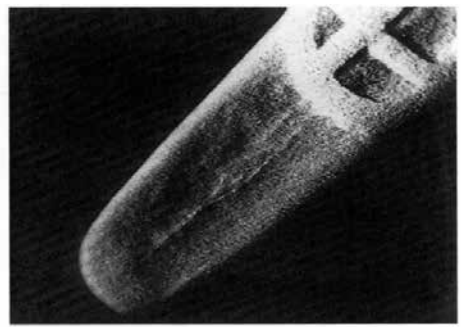
図1 和歌山県外来系玉類出土古墳所在地図

表1 和歌山県外来系玉類集成表

番号	古墳名	墳形	墳長	時期	金製玉類	銀地鍍金玉類	銀製玉類	銅製玉類	蜻蛉玉二色玉	重層ガラス玉	装飾品	武器	馬具	その他
1	車駕之古址古墳	前方後円	86m	5C中葉	勾玉1									
2	大谷古墳	前方後円	70m	5C後半							四葉形飾金具 ガラス玉20/32 鳩目金具20 金銅製垂飾	馬冑・馬甲 冑 短甲 鉄銚 鉄鏃	○	金銅・銀製 銚板
3	花山6号墳	前方後円	49m	6C初	空玉1		扁六角1 空玉3				銀製垂飾	鉄鏃	○	
4	鳴滝1号墳	円墳	25m	6C後半		梶子25 扁空玉9	空玉12					単鳳環頭大刀鉄鏃	○	金銅製飾履
5	八幡塚古墳	円墳	20m	6C後半		空玉1	梶子2					鉄鏃		
6	井辺前山6号墳	前方後円	49m	6C前半			空玉1		8・1			鉄銚 鉄刀	○	陶質土器
7	大日山35号墳	前方後円	84m	6C前半			梶子4 空玉4					胡鏃金具 小札	○	鏡
8	晒山10号墳	前方後円	35m	6C前半			空玉4				金製垂飾	鉄刀 鉄鏃	○	
9	黒土古墳	円墳	25m	6C中葉			五段空玉3					鉄刀 鉄鏃		
10	天王塚古墳	前方後円	88m	6C中葉			空玉3		1		金銅製飾金具 ガラス玉1	鉄鏃 小札		ムディサラ2
11	船戸山3号墳	円墳	20m	6C後半			空玉1					鉄刀 鉄鏃	○	
12	鳴滝5号墳	円墳	不明	6C後半			空玉2					鉄刀		
13	船戸箱山	方墳	28× 20m	6C中葉				金銅空 球1			金製冠	飾大刀	○	
14	祓井戸10号墳	円墳	20m	6C後半				勾玉状1				鉄劔 鉄刀		
15	秋葉山古墳	円墳	13m	6C後半				空球1				鉄刀 鉄鏃		
16	山東22号墳	円墳	27m	6C後半					1		金製冠	銀象嵌鐔	○	
17	奥山田2号墳	円墳?	不明	6C後半						4				
					2	35	40	3	10・1	4				



(1)車駕之古址古墳金製勾玉 (写真提供 和歌山市教育委員会)



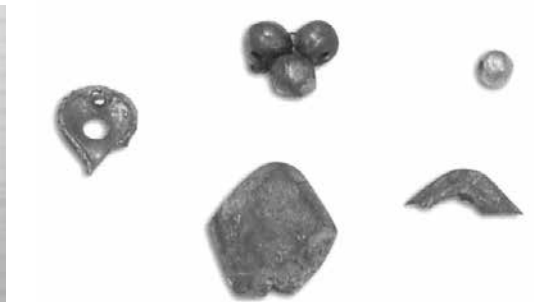
(2)車駕之古址古墳金製勾玉X線写真
銀鑲付け
(写真提供 和歌山市教育委員会)



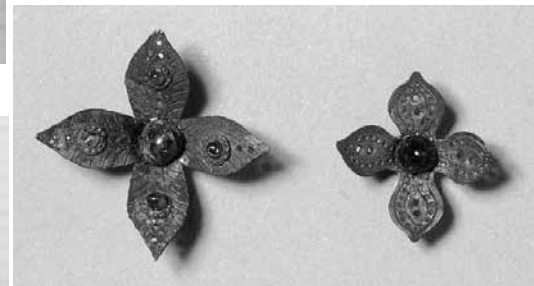
(3)韓国 玉田M4号墳金製勾玉① (写真提供 慶尚大学校博物館)



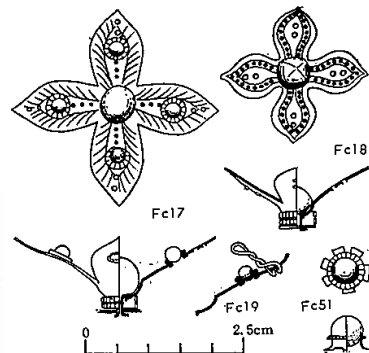
(4)韓国 玉田M4号墳金製勾玉② (写真提供 慶尚大学校博物館)



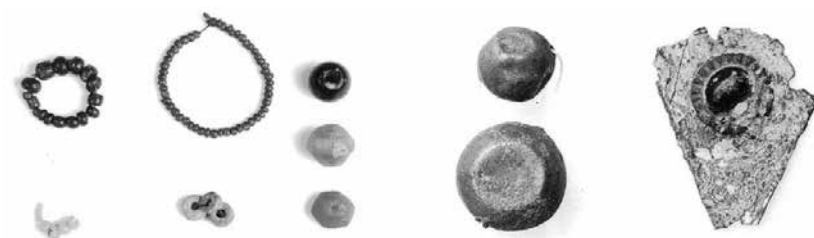
(5)花山6号墳金・銀製空玉



(6)大谷古墳銀製四葉形飾金具



(7)大谷古墳銀製四葉形飾金具実測図



(8)天王墳古墳玉類・金銅製飾金具



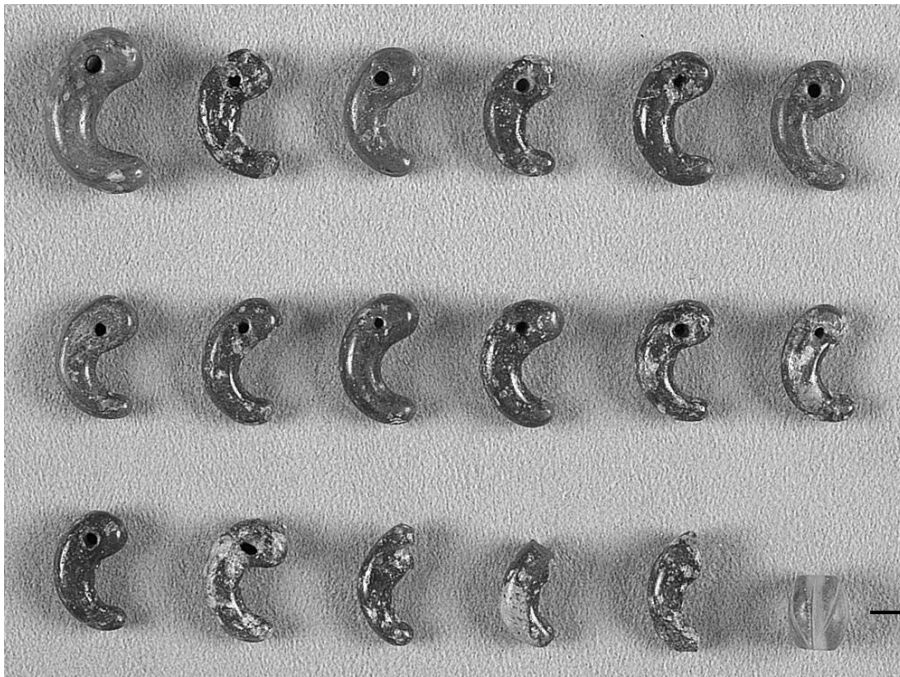
(9)大日山35号墳銀製空玉

(10)黒土古墳銀製梔子玉・有段空玉

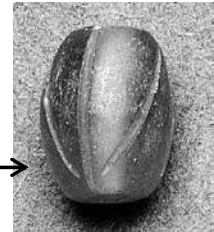


(11)鳴滝1号墳銀地鍍金製空玉

図2 和歌山県の古墳出土金属製玉類



棗玉



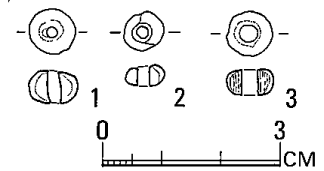
(1)大谷古墳ガラス製勾玉・棗玉



(2)井辺前山6号墳トンボ玉・ガラス製勾玉



(3)井辺前山6号墳トンボ玉・二色重ねガラス玉



(4)奥山田2号墳重層ガラス玉実測図



(5)山東22号墳トンボ玉



トンボ玉



(6)天王塚古墳トンボ玉・ムディサラ

図3 和歌山県の古墳出土装飾付ガラス玉

福岡県の外来系玉類

福岡県

(福岡県教育庁文化財保護課 吉田 東明)

1. はじめに

福岡は朝鮮半島から近い位置にあるため、各時代を通して対外交流の影響が色濃くみられる。弥生時代には稲作がいち早く伝わり、金属製品やガラス製品も先駆的に生産が始まった。古墳副葬品や集落出土品にも朝鮮半島に由来する遺物が少なくない。古代には対外防衛・交流の拠点として大宰府が置かれ、中世には国際貿易都市博多が大いに繁栄した。今日もなお福岡は海外を強く意識しており、我が国の対外交渉の窓口としての役割を担っている。

2. 福岡県の外来系玉類

これまでに福岡県で確認された古墳時代の玉類は、総数95,000点を超える。このうち外来系玉類は446点を数える。他地域と比較すると数も種類も多く、福岡ならではの地域の特徴がよく表れている。なお、ここで言う「外来系玉類」は、海外からの搬入品に厳密に限定するのではなく、のちに国産化した可能性のあるものや出自がよくわかっていないものも含めている。

雁木玉は現在のところ、6世紀後半の3古墳から4点見つかっただけで、多くはない(図5)。

斑点文トンボ玉は5古墳で計7点見つかった(図5・6)。5世紀後半を初現とし、6世紀後半に増加する。どの古墳でも1～2点しか見られず、多量に副葬することはないようである。

金属製玉類は44古墳で計168点見つかった(図1・2)。5世紀後半の出土例が最も古く、6世紀後半には大幅に増加する。1古墳から1～3点出土する例が多いが、盟主的な古墳からはまとまった数が出土することもある。久留米市隈山2号墳(6世紀後半)から出土した12点の銀製梔子玉は、県内では稀有な事例である。

最近注目を集めている外来系玉類に、メノウ丸玉や重層ガラス玉がある。メノウ丸玉は、鮮やかな橙色や赤茶色をしたものが多い。概ね片側の孔の周辺が大きく窪んでおり、孔は径が小さく直線的である。玉の表面は光沢を帯びるが、凹凸を残したままであることが多い。県内では109古墳から212点のメノウ丸玉が見つかっており、大半がこうした特徴を有している(図

3・4)。3～4世紀の墳墓出土品に数例ある他、大半は6世紀後半以降の古墳から出土している。

重層ガラス玉は近年になって、県内にも複数あることがわかってきた。現在確認した限りでは13の古墳から15点見つかった(図5)。金層が多く、銀層は2点と少ない(図6)。連玉となるものが3点ある。

方形ガラス玉と天河石製玉は、最近注目を集めている外来系玉類である。方形ガラス玉は透明度の高い薄水色であることを共通の特徴とし、立方体や直方体のものが多い(図10)。なかには六角柱のものもある。県内では今のところ22古墳から25点見つかり、6世紀後半から7世紀に類例が集中する(図9)。天河石製玉は、福岡県でも弥生時代前期の出土例は知られていたが、近年、6世紀後半の3古墳から各1点の天河石製丸玉が確認された(図7・8)。古墳時代には使われていないと思われていた石材だけに、その来歴が気になるところである。

3. 他地域との比較

鮮やかな橙色や赤茶色のメノウ丸玉は、わが国では北部九州に分布の中心域がある。朝鮮半島に類例が多く、半島経由でもたらされたとみて良いだろう。重層ガラス玉はこれまで関西を中心に各地で見つかった。西アジアで製作されたことが知られており、朝鮮半島でもやはりまとまった数の出土例がある。

方形ガラス玉は今のところ、福岡県以外に宮崎県や大分県でも見つかった。朝鮮半島にも類例はあるが、福岡県よりも発見数が少ない上、副葬された古墳の時期にも大きな隔りがあるようである。6世紀後半頃に製作されたものが、朝鮮半島から伝来した、と素直に解釈することは難しく、その来歴には、国内はもとより広くアジア全体の動向を意識する必要がある。古墳時代の天河石製玉は、今のところ宮崎県、奈良県でも確認されているが、肝心の朝鮮半島では同時期の出土例はこれまで知られていなかった。朝鮮半島ではこの時期もなお天河石を使った玉作りが行われていたのか、それとも長期伝世、または再利用されたのか、今後さらに視野を広げて検討する必要がある。

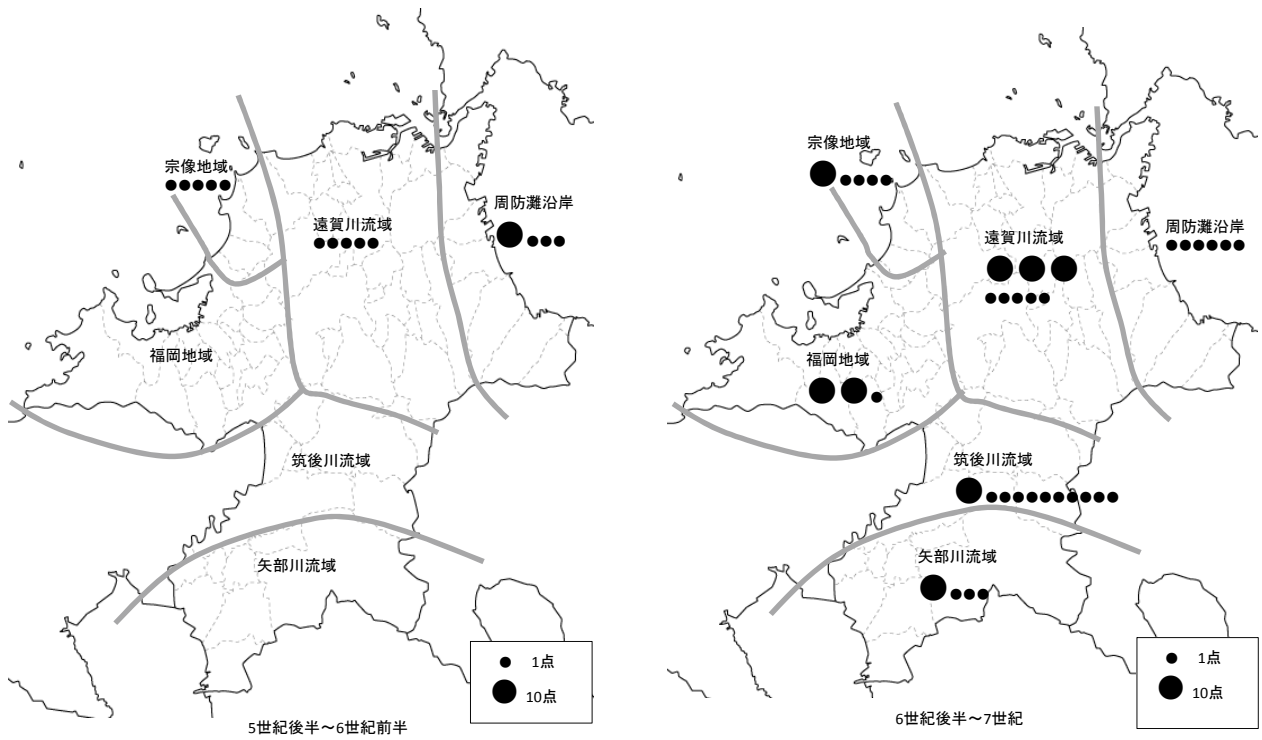


図1 金属製玉類の分布

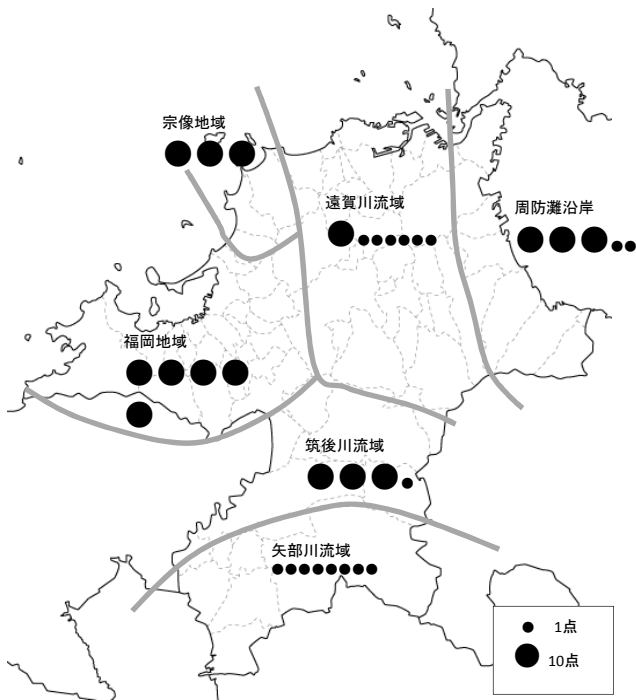


図3 メノウ丸玉の分布

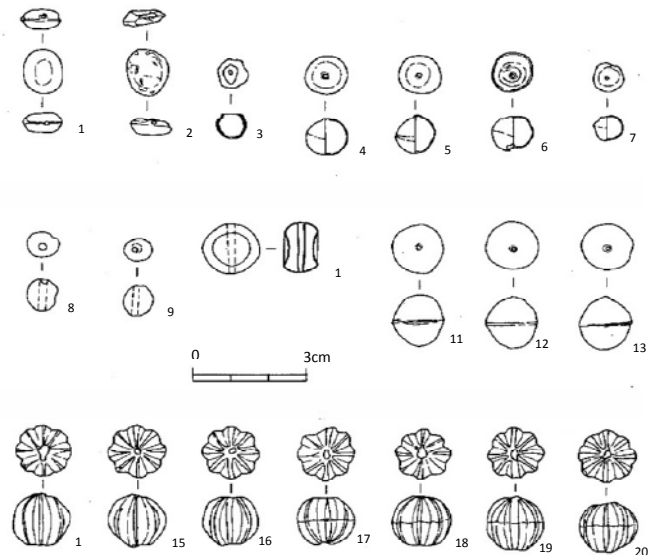


図2 金属製玉類実測図

- | | | |
|-------------|----------------|-------------|
| 1・2 山の神古墳 | 8・9 門田辻田2号墳 | 14～20 隈山2号墳 |
| 3 小正西古墳 | 10 隼人塚古墳 | |
| 4～7 田久瓜ヶ坂古墳 | 11～13 東油山E群1号墳 | |

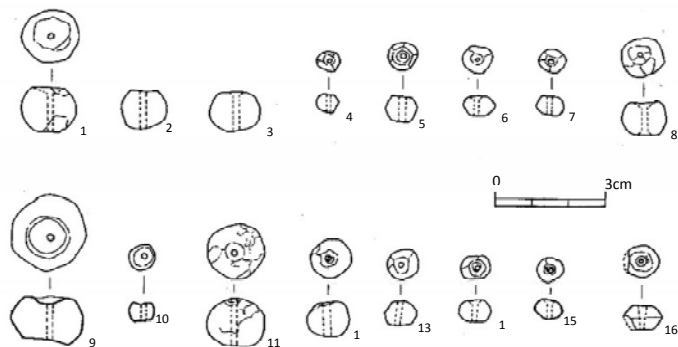


図4 メノウ丸玉実測図



丸ノ口V-5号墳

福正寺古墳

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1 坂の下5号墳 | 6・7 花見2号墳 | 11～15 観音浦南17号墳 |
| 2・3 三雲南小路4号臺棺墓 | 8 武丸首真尾2号墳 | 16 尾倉出口1号墳 |
| 4・5 菩提寺古寺2号墳 | 9・10 朝町妙見3号墳 | |

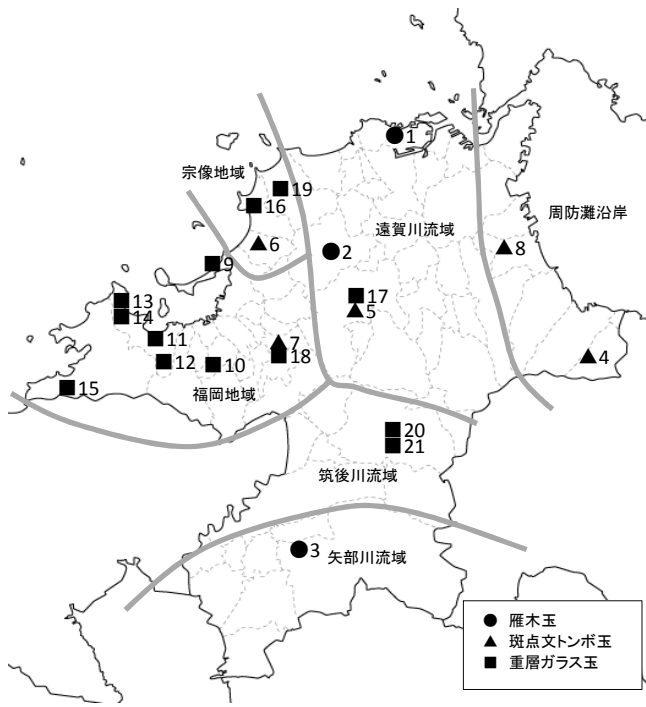


図5 雁木玉・斑点文トンボ玉・重層ガラス玉の分布

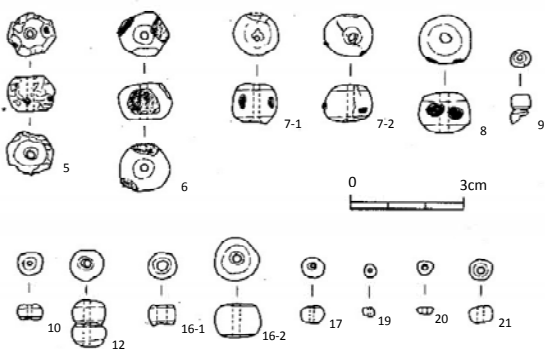


図6 斑点文トンボ玉・重層ガラス玉実測図

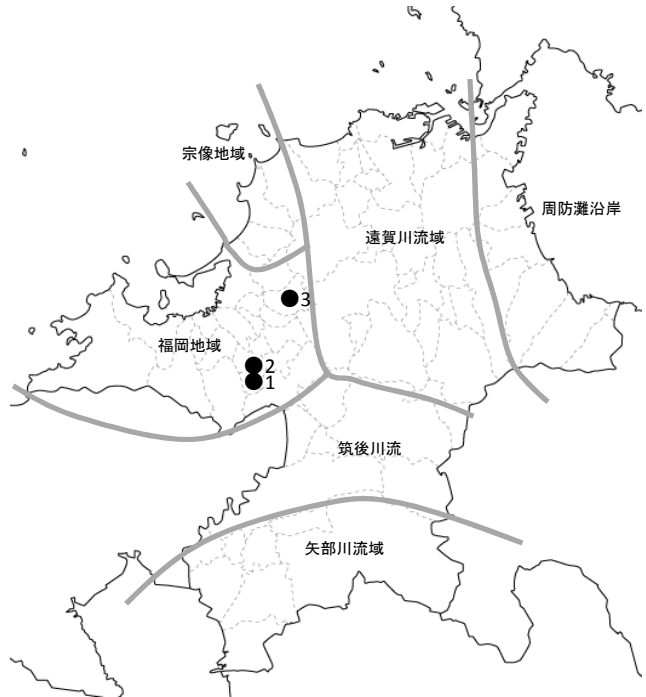


図7 天河石製丸玉の分布

雁木玉

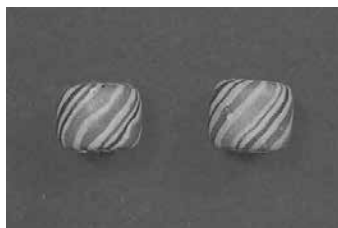
遺跡名	所在地	出土遺構	時期	点数	備考
1 こうしんのう2号墳	北九州市	円墳(横穴式石室)	後期	2	赤、白、黄、緑
2 向畑1号墳	宮若市	円墳(横穴式石室)	6世紀後半	1	赤、白、黄、緑
3 乗場古墳	八女市	前方後円墳(横穴式石室)装飾古墳	6世紀後半	1	緑、黄

斑点文トンボ玉

4 新池南古墳	上毛町	円墳(横穴式石室)径15m	6世紀後半	1	コバルトブルーに淡黄色斑点・欠損
5 山の神古墳	飯塚市	前方後円墳(横穴式石室)長80m	5世紀後半~6世紀前半	1	青紺色に黄白色斑点
6 佐谷古墳	古賀市	円墳(横穴式石室)径約20m	6世紀中葉~後半	2	紺色に緑色斑点1 緑色に白色斑点1
7 正籠3号墳	宇美町	前方後円墳(横穴式石室)長約45m	6世紀後半	2	紺色に水色斑点2
8 竹並遺跡	行橋市	横穴墓	6世紀後半	1	

重層ガラス玉

9 三苦5次9号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径不明	後期	1	金 連玉
10 柏原C-6号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径4m	後期	1	金
11 山崎C-1号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径12m	6世紀末	1	銀 連玉
12 席田大谷2号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径8m	6世紀中葉	1	金
13 石ヶ元19号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径16m	後期	1	金
14 石ヶ元28号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径12m	後期	1	金
15 唐船古墳	糸島市	円墳(横穴式石室)	6世紀末~7世紀	1	金
16 勝浦高原3号墳	福津市	円墳(複室横穴式石室)径不明	6世紀後半	2	金 大1、小1
17 山王山古墳	飯塚市	円墳(複室横穴式石室)径20m 装飾古墳	6世紀末	1	金
18 正籠3号墳	宇美町	前方後円墳(横穴式石室)長約45m	6世紀後半	1	金 芯と表層とが剥離
19 相原4号墳	宗像市	円墳(横穴式石室)径約10m	後期	2	金 連玉
20 山田1号墳	朝倉市	円墳(横穴式石室)径10m	6世紀後半	1	銀
21 天園2号墳	朝倉市	円墳(複室横穴式石室)径11m	7世紀中葉	1	金



こうしんのう2号墳



唐船古墳

天河石製丸玉

遺跡名	所在地	出土遺構	時期	点数	備考
1 古野A1号墳	大野城市	円墳(横穴式石室)	後期	1	薄青色 片面穿孔
2 牛頭中通10号墳	大野城市	円墳(複室横穴式石室)径不明	後期	1	薄青色 片面穿孔
3 上ヶ原10号墳	久山町	円墳(横穴式石室)径13m	7世紀前半	1	薄青色 両面穿孔

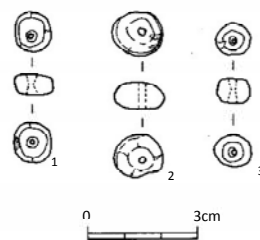


図8 天河石製丸玉実測図



古野A-1号墳



牛頭中通10号墳



上ヶ原10号墳

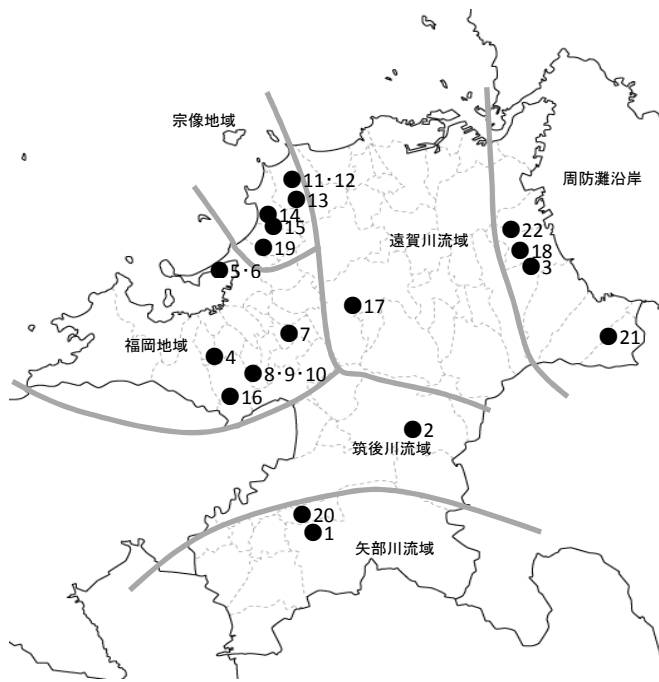


図9 方形ガラス玉の分布

方形ガラス玉

	遺跡名	所在地	出土遺構	時期	点数	備考
1	長野1号墳	八女市	円墳(複室横穴式石室)径17m	6世紀後半 ~7世紀後半	1	方形 うすい水色透明
2	山田1号墳	朝倉市	円墳(複室横穴式石室)径10m	6世紀後半	1	方形 うすい水色透明
3	徳永川ノ上2号墳	行橋市	円墳(横穴式石室)径14m	6世紀末	1	方形 白濁した青色不透明
4	柏原C-6号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径4m	後期後半	2	方形 半透明水色
5	三笠5次8号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径約9m	6世紀中葉	1	方形 淡い青色 低AI?ソーダ石灰ガラス
6	三笠5次8号墳	福岡市	円墳(横穴式石室)径約9m	6世紀中葉	1	六角形 淡い青色 低AI?ソーダ石灰ガラス
7	岩長浦1号墳	宇美町	円墳(横穴式石室)径15m	7世紀	1	扁平六角形 うすい水色透明
8	牛頭中通6号墳	大野城市	円墳(小型横穴式石室)径不明	6世紀末	1	方形 うすい水色透明
10	牛頭中通10号墳	大野城市	円墳(複室横穴式石室)径不明	7世紀初頭	1	方形 うすい水色透明
9	牛頭中通10号墳	大野城市	円墳(複室横穴式石室)径不明	7世紀初頭	1	六角形 うすい水色透明
11	大井三倉2号墳	宗像市	円墳(横穴式石室)径不明	6世紀末	1	方形 うすい水色透明 中アルミナカリガラス 鉄着色
12	大井三倉3号墳	宗像市	円墳(横穴式石室)径13m	6世紀末	1	扁平六角形 うすい水色透明 中アルミナカリガラス 鉄着色
13	田久瓜ヶ坂4号墳	宗像市	円墳?(横穴式石室)径不明	6世紀前半?	1	方形 うすい水色透明
14	福正寺古墳	福津市	不明(横穴式石室)	6世紀中葉	1	方形 水色
15	手光南3号墳	福津市	円墳(複室横穴式石室)径12m	6世紀末	1	六角形 紺色透明
16	観音山I-5号墳	那珂川町	円墳(横穴式石室)径14m	6世紀後半	1	方形 うすい水色透明
17	池田横穴群	飯塚市	横穴墓	6世紀後半 ~7世紀初頭	1	方形 うすい水色透明
18	竹並遺跡	行橋市	横穴墓	6世紀後半	3	方形
19	神ノ上古墳	古賀市	円墳(横穴式石室)		1	方形 うすい水色
20	上長延9号墳	広川町	円墳(複室横穴式石室)径12m	6世紀後半	1	六角形 ライトブルー
21	土佐井1号墳	上毛町	円墳(横穴式石室)径15m	6世紀後半	1	方形 薄藍色
22	尾倉出口1号墳	苅田町	円墳(横穴式石室)径7m	6世紀後半	1	扁平六角形 うすい水色透明
23	金海良洞里17号墓	韓国		2世紀前半	1	扁平六角形 うすい水色透明
24	完州上雲里ナ地区 1号墳丘墓2号粘土樹	韓国		3~4世紀	1	扁平六角形 うすい水色透明

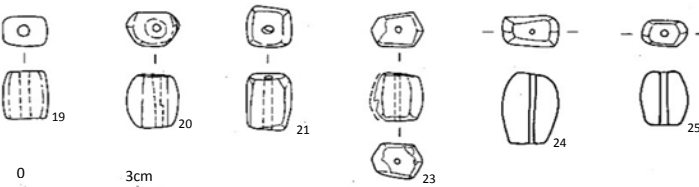
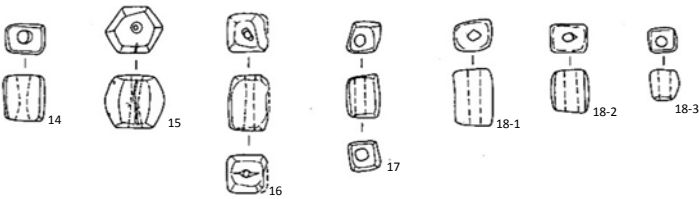
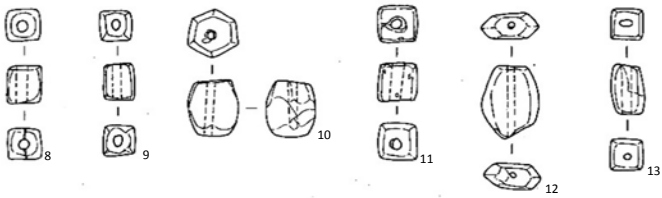
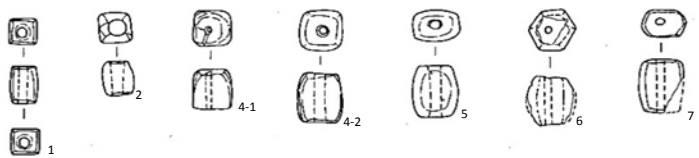
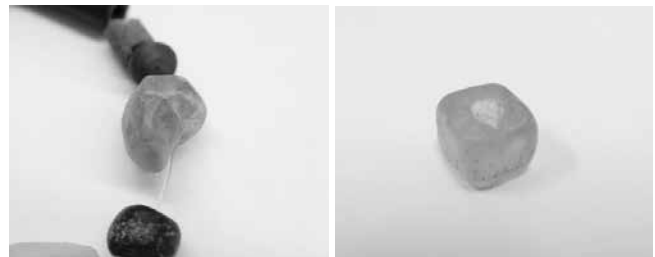
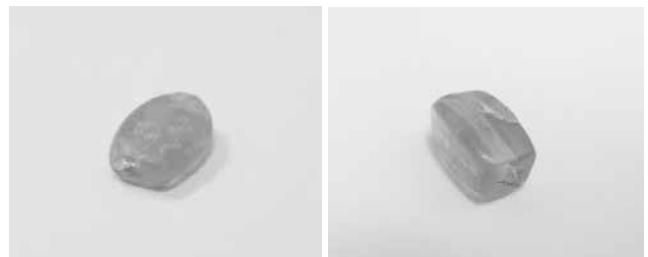


図10 方形ガラス玉実測図



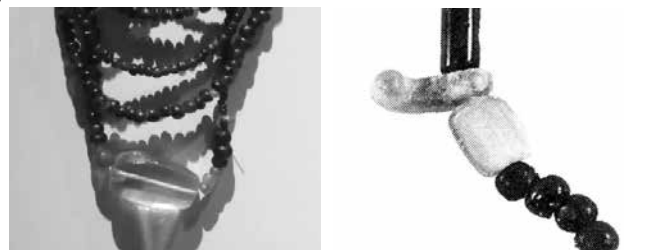
牛頭中通10号墳

大井三倉2号墳



大井三倉3号墳

田久瓜ヶ坂4号墳



良洞里17号墳

玉田72号墳

宮崎県の外来系玉類と東アジアにおける雁木玉

宮崎県

(宮崎県立西都原考古博物館 藤木 聡)

1. はじめに

宮崎県では、墳丘を持つほとんどの古墳が昭和初期に国や県の史跡に指定されたため未調査であり、副葬品の内容を知ることができるのは、わずかな高塚古墳と横穴墓、在地墓制である地下式横穴墓に限定される。その状況の中にも、ヒスイ製勾玉やガラス製玉類・希少な雁木玉をはじめ、他地域からもたらされた各種玉類が見られる点が、宮崎県出土の古墳時代の玉類の特徴である。また、集落遺跡から出土する玉類は、古墳出土品と異なる種類や組成である。玉作り遺跡は今のところ未見である。

2. 宮崎県内出土の外来系玉類 (図1・表1)

雁木玉は、宮崎県内出土の外来系玉類を代表するものであり、銭亀塚(申間市・6世紀)の平石積石槨からガラス小玉35点・小型鏡1点等とともに出土した。天河石製丸玉は、蓮ヶ池46号横穴墓(宮崎市・7世紀)からメノウ製勾玉等とともに出土した。これまで慎重な言い回しで硬玉製とされていたが、今回の調査で天河石製である可能性が高いと判明した。トンボ玉は、北中遺跡6号地下式横穴墓(宮崎市・6世紀後半)玄室のほぼ中央から1点、持田古墳群(高鍋町)から出土したとされる玉類の中に2点ある。やや特殊なガラス玉として、方形ガラス玉が鈴鏡塚(日向市・6世紀前半)・柿木原2号地下式横穴墓(宮崎市・6世紀後半)・狐塚古墳(日南市・7世紀前半)から各1点の計3点がある。なお、持田53号墳(旧56号墳、高鍋町)から出土したとされる銀製空玉4点は、盗掘品から出土墳を推測したものであり、扱いに注意を要する。

3. 東アジアにおける雁木玉 (図2・表2)

雁木玉は、2色以上のガラスを巻きつけて“斜めでギザギザ”(=雁木)等の縞模様が作り出されたもので(図3)、東地中海沿岸で作られたものが遠く韓半島や日本列島までもたらされている(荻谷・小田1990・小寺2012・由水1989・栗東歴史民俗博物館2003ほか)。その縞構造からは、韓国では練理文琉璃玉等と呼ばれ(福泉博物館2013ほか)、日本でも縞文様ガラス玉という呼称が提案されている(安永2008)。雁木玉は日本の考古学界でも早くから知られ「雁木玉と呼ばれてゐるものも類例極めて稀である。雁木文様の如く青・黄及び赭色を以て交互に縞をなすが如くにつくられた丸玉が、美作国久米郡佐良山村から出土してゐる」(後藤1942)と紹介された。

小田富士雄氏は、日本における雁木玉の古期に黄色の地色に8(9)本の緑色縞文様がめぐる新沢千塚126号墳例(5世紀中頃)をあて、6世紀中頃から後半に、武寧王陵の雁木玉と同系の茶・黄・緑・白色を縞状に交互にくり返し配色する技法のものが登場すること、その出現期において韓国を含む国外から将来された可能性に言及し(小田1992)、その後、新徳古墳の

情報公開を受け、百済地域が日本列島出土の雁木玉と最も親近性を示すであろうと述べた(小田2012)。また、武寧王陵出土の雁木玉と日本出土品の近縁性から、雁木玉出土古墳の被葬者について、朝鮮半島からの渡来人(富樫2003)あるいは地域の有力首長や韓半島系移住民(申2005)と推定されている。

雁木玉の集成的研究からは、日本出土の雁木玉がその構造から5型式に分類でき、九州地方を中心に多く出土すると指摘された(安永2008)。また、5世紀中頃の韓国慶州皇南大塚南墳と新沢千塚126号墳、6世紀前葉の韓国咸平新徳古墳と5世紀後半の盛土山古墳という、日韓で年代的に併行して共通した型式の雁木玉が出土している点が注目されている(安永2002)。

銭亀塚(申間市)の雁木玉は、茶・黄・緑・白色を縞状に交互にくり返し配色する技法のものであり、日本国内では類品が5遺跡7例ある(表2)。また、韓国羅州の伏岩里3号墳4号甕棺墓(6世紀中葉～7世紀前葉)からこれらに酷似する雁木玉が出土し、安永が指摘した日韓の共通性を補強する新資料となった。日韓の雁木玉が、各時期において分類1から分類3(図4)の順で併行して登場することは確かそうであるが、一方でその現象の背景については、他の考古資料等の総体の中で議論される必要がある。

主な参考文献

- 小田富士雄 1992「日本における武寧王陵系遺物の研究動向(含質疑応答)」『福岡大学総合研究所報』147, pp.1-30, 福岡大学総合研究所(『百済文化』21輯(1991年)の日本語版)
- 小田富士雄 2012「百済武寧王陵文物をめぐる東アジア世界」『古代九州と東アジア I』(初出は小田1999・2001), pp.532-547, 同成社
- 荻谷道郎・小田富士雄 1990「北九州市こうしんのう2号墳出土雁木玉」『考古学雑誌』第76巻第1号, pp.101-103, 図巻頭, 日本考古学会
- 後藤守一 1942「上古時代のガラス」『日本古代文化研究』, pp.733-757, 河出書房
- 小寺智津子 2012「ガラスが語る古代東アジア」『ものが語る歴史シリーズ』⑦, 同成社
- 申 昌秀 2005「百済の国際交流-武寧王陵の発掘成果を中心に-」『百済の国際交流-武寧王陵の最新研究をめぐって-』pp.37-53, 国立歴史民俗博物館
- 富樫雅彦 2003「弥生・古墳時代のガラス」『考古資料大観』第6巻, pp.339-344, 小学館
- 福泉博物館 2013『선사·고대 옥의 세계 The World of Ancient Bead』2013福泉博物館特別企画展図録
- 安永周平 2002「朝鮮半島における象嵌琉璃玉・金層琉璃玉」『朝鮮古代研究』第3号, pp.15-28, 朝鮮古代研究刊行会
- 安永周平 2006「双六古墳出土の装飾付ガラス玉(通称トンボ玉)について」『双六古墳』壱岐市文化財調査報告書第7集, pp.93-104, 壱岐市教育委員会
- 安永周平 2008「装飾付ガラス玉研究序論」『檀原考古学研究所論集』第十五, pp.327-346
- 由水常雄 1989『トンボ玉』平凡社
- 栗東歴史民俗博物館 2003『古墳時代の装飾品 玉の美』平成14年度企画展図録

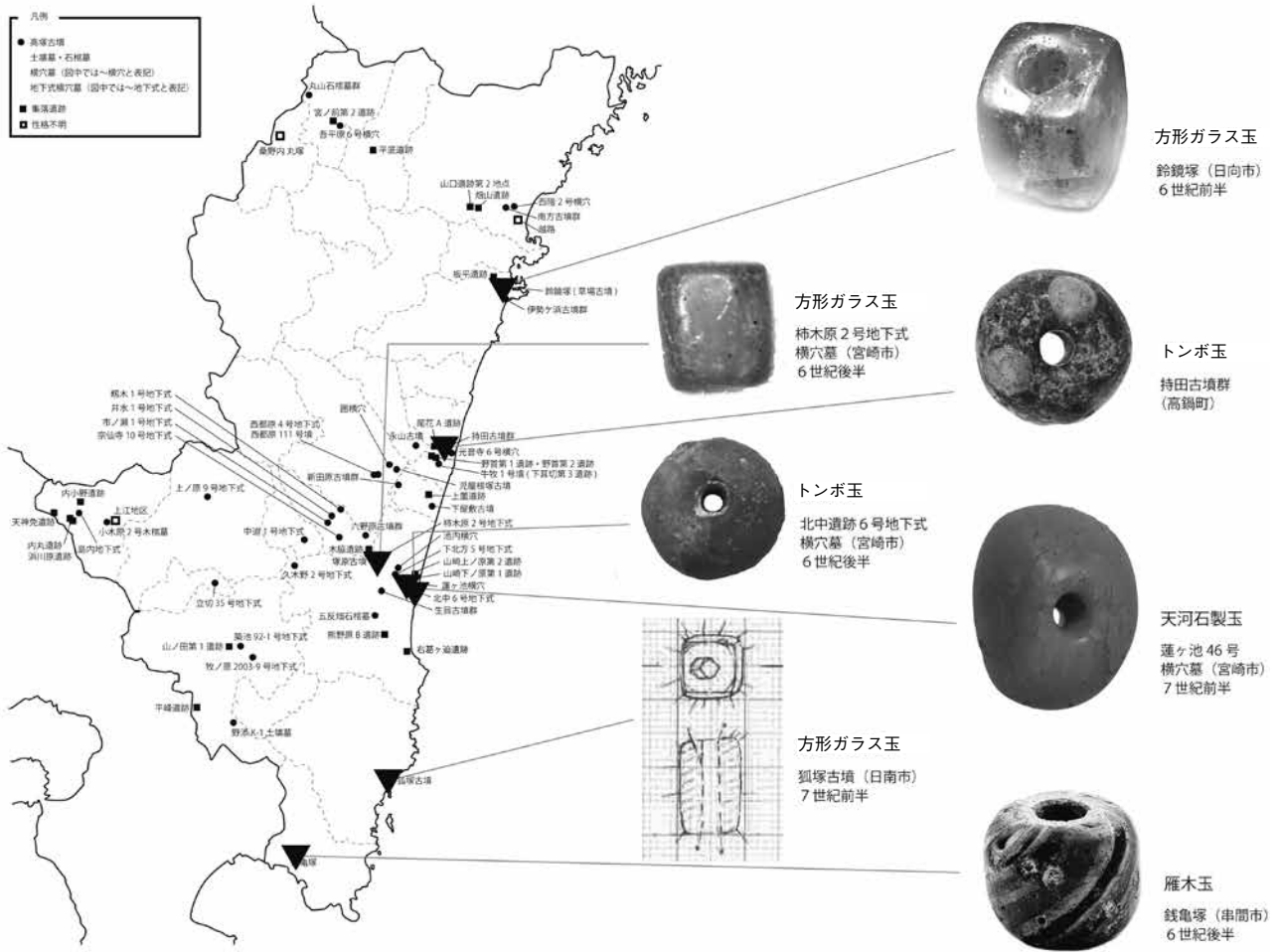


図1 宮崎県内出土の外来系玉類の概要

表1 宮崎県内出土の外来系玉類の一覧表

種別	出土遺跡 (所在地)	時期	点数	伴出遺物
雁木玉	銭亀塚 (串間市)	6世紀後半	1点	ガラス小玉 36・銀環 1・小型鏡 1・鉄鏃・鉄釘・須恵器
トンボ玉	北中遺跡 6号地下式横穴墓 (宮崎市)	6世紀後半	1点	耳環・鉄剣・須恵器・土師器
トンボ玉	持田古墳群 (高鍋町)		2点	
方形ガラス玉	鈴鏡塚 (日向市)	6世紀前半	1点	ガラス勾玉 3・翡翠勾玉 2・碧玉管玉 8・八鈴鏡 1・銀環 1・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄片・砥石
方形ガラス玉	柿木原 2号地下式横穴墓 (宮崎市)	6世紀後半	1点	翡翠勾玉 1・水晶切子玉 2・碧玉管玉 5・ガラス小玉 35
方形ガラス玉	狐塚古墳 (日南市)	7世紀前半	1点	水晶勾玉 1・翡翠勾玉 1・ガラス勾玉 1・ガラス管玉 1・水晶切子玉 12・ガラス丸玉 7・瑪瑙丸玉 1・ガラス小玉 125・耳環・金銅装鉄刀・鉄刀子・鉄鏃・馬具・銅碗 2・須恵器
銀製空玉	持田 53号墳 (旧 56号墳) (高鍋町)		4点	
天河石製玉	蓮ヶ池 46号横穴墓 (宮崎市)	7世紀前半	1点	瑪瑙勾玉 1・耳環 3・鏡 1・鉄刀子・鉄鏃・馬具・須恵器・土師器



図2 日本・韓国における雁木玉出土遺跡の分布図

表2 日本・韓国における雁木玉出土遺跡の一覧表

遺跡名 (所在地)	点数	分類	時期
韓 武寧王陵 (忠清南道公州市)	1	(3類)	6世紀前葉 (525年)
新村里9号墳乙甕棺 (全羅南道羅州市)	1	2類	5世紀後葉
伏岩里3号墳4号甕棺墓 (全羅南道羅州市)	1	3類	6世紀中葉～7世紀前葉
新徳古墳 (全羅南道咸平郡)	4	1・2類	6世紀前葉
国 皇南大塚98号北墳 (慶尚北道慶州市)	3	1類	5世紀中葉?
林堂遺跡C-I-26号墳 (慶尚北道慶山市)	1	(3類)	6世紀後葉
日 乗場古墳 (福岡県八女市) (瀬高町内 (現:みやま市))	1 —		6世紀中頃 —
こうしんのう2号墳 (福岡県北九州市)	2	3類	6世紀中頃
コフノ際遺跡B地点第2号遺構 (長崎県対馬市)	1		6世紀中頃
銭亀塚 (宮崎県串間市)	1	3類	6世紀後半
本 大浦8号墳 (山口県山口市)	1		6世紀末
岩田14号墳 (岡山県赤磐市) (岡山県美作市佐良山)	1 1	3類 —	6世紀後半 —
盛土山古墳 (香川県多度津町)	1	2類	5世紀後半
青山2号墳 (京都府城陽市)	1	(3類)	6世紀前半
新沢千塚126号墳 (奈良県橿原市)	2	1類	5世紀中頃
岡峯古墳 (奈良県下市町)	1		6世紀後半
船来山19号墳 (岐阜県本巣市)	2	3類	6世紀中頃
岩津2号墳 (愛知県岡崎市)	1	3類	6世紀末
韓国	6遺跡	11点	
日本	14遺跡	16点	
計	20遺跡	27点	

韓国資料は安永2002をベースに、その後の調査資料で把握できたものを加えて作成した。日本資料は安永2006から作成した。時期は、安永2002・2006採録分についてはその記載を転記し、その他は各報告書から起こした。

安永周平 2002 「朝鮮半島における象嵌琉璃玉・金層琉璃玉」『朝鮮古代研究』第3号

安永周平 2006 「双六古墳出土の装飾付ガラス玉 (通称トンゴ玉) について」『双六古墳』 壱岐市文化財調査報告書第7集、壱岐市教育委員会

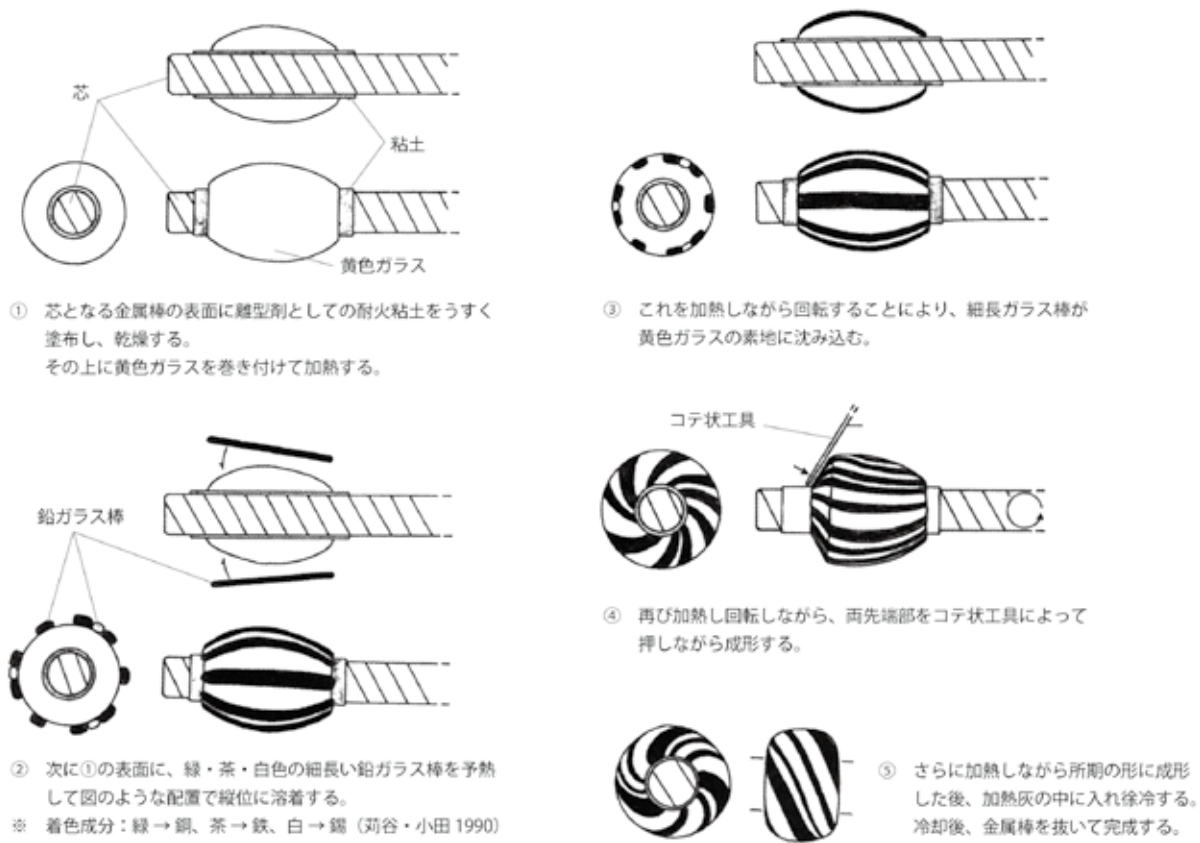


図3 雁木玉の製作方法 (栗東歴史民俗博物館2003から一部改変)

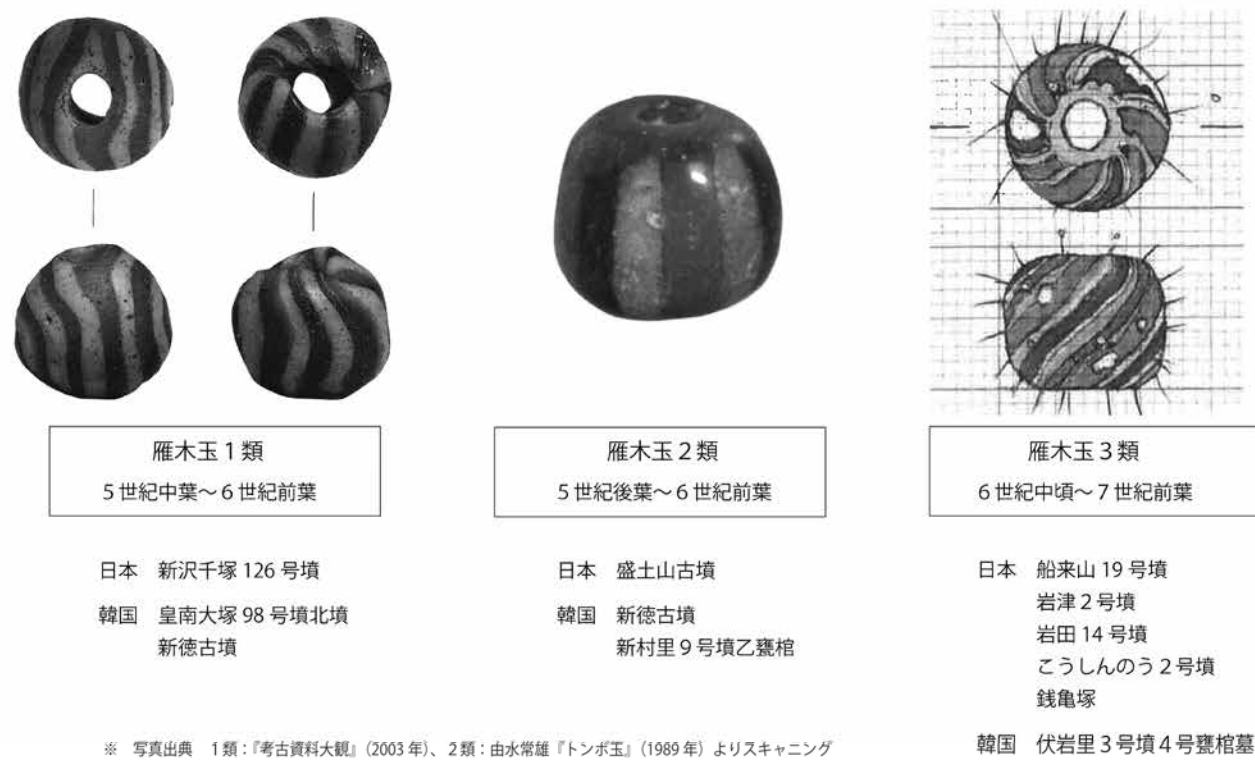


図4 雁木玉の分類模式図

招待講演講師・コーディネーター・パネリストのプロフィール

【招待講演講師】

朴 天秀 (パク チョンス)

韓国慶北大学校教授 1964 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『古代日韓交渉史』 社会評論 (韓国語) 2007 年

『加耶と倭 韓半島と日本列島の考古学』 講談社選書メチエ (日本語) 2007 年

【コーディネーター】

菅谷 文則 (すがや ふみのり)

奈良県立橿原考古学研究所所長 1942 (昭和 17) 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『岩橋千塚』 関西大学考古学研究室 (共著) 1968 年

『宇陀丹切古墳群』 奈良県立橿原考古学研究所 1978 年

【パネリスト】

宮崎 認 (みやざき みとむ)

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター主任 1972 (昭和 47) 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『若狭地方主要前方後円墳総合調査報告書』 福井県教育委員会 (共著) 1997 年

『第 2 章 遺構・遺物をとおしてみた若狭・越 埴輪』 入江文敏・伊藤雅文編『季刊考古学・別冊 19 若狭と越の古墳時代』 雄山閣 (共著) 2013 年

井上 主税 (いのうえ ちから)

奈良県立橿原考古学研究所主任研究員 1972 (昭和 47) 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『辰韓・弁韓の対外交渉 - 楽浪郡・帯方郡および倭との関係 -』 『海でつながる倭と中国 - 邪馬台国の周辺世界』 新泉社 2013 年

『朝鮮半島の倭系遺物からみた日朝関係』 学生社 2014 年

黒石 哲夫 (くろいし てつお)

和歌山県教育庁文化遺産課主幹 1960 (昭和 35) 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『紀伊における後期古墳時代の集団関係 - 岩橋系横穴式石室の展開を中心として -』 『待兼山考古学論集 - 都出比呂志先生退任記念 -』 2005 年

『岩橋千塚古墳群の築造労働力からみた被葬者の階層制と集団の人口について』 『待兼山考古学論集 II - 大阪大学考古学研究室 20 周年記念論集 -』 2010 年

吉田 東明 (よしだ とうめい)

福岡県教育庁文化財保護課企画係長 1970 (昭和 45) 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『白木西原遺跡 II』 立花町文化財調査報告書第 8 集 (共著) 1995 年

『西新町遺跡 V』 福岡県文化財調査報告書第 178 集 2003 年

藤木 聡 (ふじき さとし)

宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主査 1976 (昭和 51) 年生まれ

〔玉類研究等の主な論著〕

『宮崎県域における縄文の玉・弥生の玉』 『玉と王権』 国際交流展図録 宮崎県立西都原考古博物館 (共著) 2009 年

『発掘された火起こしの歴史と文化』 『宮崎県文化講座研究紀要』 第 40 輯 宮崎県立図書館 2014 年

第 2 回 古代歴史文化協議会講演会資料

発行年月日 平成 28 年 12 月 10 日

編 集 古代歴史文化協議会調査部会事務局 (奈良県立橿原考古学研究所)

〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町 1 番地

TEL : 0744-24-1101 FAX : 0744-24-6747

発 行 古代歴史文化協議会

印 刷 株式会社明新社 <http://www.meishin.co.jp/>

